

肥前国松浦郡入野村諸岡家文書仮目録（二）

古賀, 康士
九州産業大学 : 講師

<https://doi.org/10.15017/4475428>

出版情報 : エネルギー史研究 : 石炭を中心として. 36, pp.91-116, 2021-03-25. 九州大学附属図書館付
設記録資料館産業経済資料部門
バージョン :
権利関係 :

【資料紹介】肥前国松浦郡入野村諸岡家文書仮目録（二）

古賀康士

解題

本稿では、前号に引き続き、記録資料館産業経済資料部門が所蔵する「諸岡家文書」の仮目録を掲載した。本稿をもって、現在確認できる産業経済資料部門所蔵「諸岡家文書」の史料全点について仮目録を収載したことになる。

「諸岡家文書」の概要と目録の凡例については、前号の「仮目録（一）」にまとめてあるので、ここでは繰り返さない。ただし、「仮目録（一）」発表後、次の二点について変更があった。

一つは、再調査の過程で、新たに史料一件が確認されたことである。これに伴って、産業経済資料部門が所蔵する「諸岡家文書」は、合計四三六件七八点となった。今後、枝番の付与などによって史料点数が増加する可能性はあるが、基本的な調査は完了しており、大きな変更はないであろう。

もう一つは、他の機関が所蔵する諸岡家由来の史料群に関する情報が

追加されたことである。前号の解題では、産業経済資料部門のほかに、九州文化史資料部門、福岡市総合図書館、玄海町教育委員会が所蔵する諸岡家由来の史料群の基礎的な情報を示したが、その後、佐賀県立図書館も、同家由来の「諸岡家資料」を所蔵することが確認できた（都留慎司氏のご教示による）。

この佐賀県立図書館所蔵「諸岡家資料」は、主に幕末期から明治期までの書状や覚から構成される。史料の目録情報は、同館がインターネット上で公開している「古文書等検索」で参照できる。この検索システムによると、「諸岡家資料」の史料件数は一七八四件となる。

以上のことから、現時点で各機関が所蔵する諸岡家由来の史料はさらに増加し、合計で五七八八件七一〇五点となる。一紙物が中心ではあるが、唐津藩の大庄屋史料としてさまざまな可能性を持つ史料群といえるだろう。今後の研究の進展に期待したい。

番号	表題	年代	作成	宛名	内容	形態	数量	備考
151	〔七言絶句書上〕	(江戸後期)						
152	〔書状〕	(江戸後期) 五月廿日	田野 池田伝左衛門	諸岡淳蔵様	抱銭不足分は町方久吉へ引渡しのことほか、伊太郎誕生祝ひに御茶指上げなきにつき御母様御出願い、	切紙	1	151～398箱入り
153	〔書状〕	(江戸後期) 二月十二日	川添治兵衛	諸岡淳蔵様	御役人様有浦翁入込につき御渡御船艀船10艘・天当10艘御手当ての件、尊公様御快方ならば私宅まで御出動願いほか、	継紙	1	包紙あり。包紙上書「諸岡淳蔵様 尊下有浦井手口。川添治兵衛」
154	〔書状〕	(江戸後期) 十月廿五日	田野 伝蔵	諸岡淳蔵様	御家内様御安座につき御祝いほか納所御中間4人につき御引合せ願いほか、	継紙	1	包紙あり。包紙上書「諸岡淳蔵様 急役用田野 伝蔵」
155	〔書状〕	(江戸後期) 十二月三日	(諸浦) 恵七郎	諸岡淳蔵様	御家内様御安座につき御祝いほか納所御中間4人につき御引合せ願いほか、	継紙	1	
156	覚	(江戸後期) 正月廿九日	吉田貞左衛門	御中間方 御組元	野竹浦喜平居成相勤め申す鶴牧・駄竹御中間1人御体足につき	継紙	1	
157	覚	(江戸後期) 正月廿九日	鶴田治郎右衛門	御組元	御中間の拙村又作は中沢様御屋敷へ御付の件ほか	切紙	1	
158	〔書状〕	(江戸後期) 二月初日	新木場 貫助	御組本	今日御返書受取の件につき1人差上のこと	継紙	1	
159	舌代	(江戸後期) 五月十四日	伊藤三平治	諸岡淳蔵様	一昨日より帯の廻へ腫物出来し歩行出来さるにつき御出雲願い、	切紙	1	
160	〔書状〕	(江戸後期) 正月廿四日	治三郎	御組元	御家中居2人唐津郡屋へ御差出願い	切紙	1	
161	覚	(江戸後期) 九月十三日	郷夫掛 大庄屋	諸岡淳蔵様	浦御奉行様御願いも城下には浪山なれど端浦にて質素のこと、拙子風邪にて浦御奉行御付添は親父へ相談みしこと	継紙	1	
162	〔書状〕	(江戸後期) 三月廿二日	幾平	御組元	御斯存は拙方も星賀へ申置けども一向なきこと、めばる網・底引きなど出漁の件	継紙	1	
163	〔書状〕	(江戸後期) 三月廿一日	幾平	御組元	御斯存は拙方も星賀へ申置けども一向なきこと、めばる網・底引きなど出漁の件	継紙	1	
164	〔書状〕	(江戸後期) 九月四日	大浦元太郎	御組元	八十才以上のもの当村になきこと	切紙	1	
165	〔書状〕	(江戸後期) 三月廿四日	鶴田治郎右衛門	諸岡淳蔵様	去18日古市集助殿へ罷出、御林願の文面相直し、別紙の通り差出のこと	切紙	1	
166	〔書状〕	(江戸後期) 四月七日	高串 池田覚左衛門	諸岡淳蔵様	私改名願の件につき	切紙	1	
167	〔書状〕	(江戸後期) 四月七日	田野 池田伝蔵	諸岡淳蔵様	絵路町役につき御役々様の来訪時期の件、新木場・田野・寺浦・梅崎各路に仰付けの件ほか	継紙	1	
168	〔書状〕	(江戸後期) 四月十七日	田野 池田伝蔵	諸岡淳蔵様	別紙赤子方拜借証文へ御押印願い、	切紙	1	
169	〔書状〕	(江戸後期) 五月十一日	世戸草七郎	諸岡淳蔵様	松兵衛銀談につき証書へ御押印願い、如さま・荒久腰御米蔵の御札ほか	継紙	1	
170	〔覚〕	(江戸後期・卯正月23日・27日)				一括	1	170-1、170-2包紙一括。包紙上書「急入野村 地方役所 大庄屋中」
170-1	覚	(江戸後期) 卯正月廿三日	地方役所⑩	入野村 大庄屋中	御手山につき遺地田普請願の分の入足積目論見入用調書差出すべきこと	継紙	1	
170-2	覚	(江戸後期) 卯正月廿七日	地方役所⑩	入野村 大庄屋中	別納端米代札2札ぬ6分5厘受取	切紙	1	
171	〔書状〕	(江戸後期) 二月十三日	宮崎庄左衛門	諸岡淳蔵様	如津丸八郎殿新木場出入一件につき米60駄高出来の件	継紙	1	包紙あり。包紙上書「諸岡淳蔵様 急内役用宮崎庄左衛門」

番号	表題	年代	作成	宛名	内容	形態	数量	備考
172	証書	(江戸後期)	庄屋	藏御進中様	瀬戸重七郎藤巻起につき年清迄御連中へ御迷惑懸けさること	継紙	1	包紙あり。包紙上書「諸岡淳蔵様 役用御答御直 石田清右衛門」
173	〔書状〕	(江戸後期) 九月廿八日	石田清右衛門	諸岡淳蔵様	組中預猪一件につき一昨日栄四郎遣しの件ほか	継紙	1	
174	〔書状〕	(江戸後期) 正月七日	喜津日高清治	諸岡淳蔵様	東小川御氏より御談ありて、形屋唐字帯刀の儀は他家を継ぐ事ゆえ唐字帯刀御免なきことほか	切紙	1	
175	〔書状〕	(江戸後期) 二月四日	現蔵	諸岡様	鹿酒一杯指上げたきにつき御采頼願ひ	継紙	1	
176	〔書状〕	(江戸後期) 正月九日	池田寛左衛門	諸岡淳蔵様	御廻村御役々様御入込、下拙義も罷出へき処、姉疳痛などにて父子共に罷出さること	継紙	1	
177	〔書状〕	(江戸後期) 正月廿八日朝	吉田貞左衛門	諸岡淳蔵様	昨朝夕風氣にて御向い出来さること	切紙	1	
178	御内分申上口上覚	(文久元年) 西九月十四日	鶴田治郎右衛門		庄屋転役の件につき	堅帳	1	案文
179	〔書状一括〕	(江戸後期)				一括	1	179-1～179-14紙組一括
179-1	覚	(江戸後期) 正月廿九日	高串 両庄屋	御組元	当暮御用楮550貫目久里組へ相渡し申すこと	切紙	1	
179-2	〔書状〕	(江戸後期) 二月廿四日	鶴田治郎右衛門	諸岡淳蔵様	先頃御願の油買入の由につき代銀16貫文程遣し申すことほか	切紙	1	
179-3	〔書状〕	(江戸後期) 十月十六日	諸岡淳蔵	石田清右衛門様、吉田貞左衛門様、鶴田治郎右衛門様	梅崎並治郎殿長病につき、親類中相談の上、実子宇左治郎成長まで石橋東三郎後見勤御敬の件	継紙	1	
179-4	〔書状〕	(江戸後期) 十月十七日	鶴田治郎右衛門	諸岡淳蔵様	梅崎並治郎殿長病につき、親類中相談の上、実子宇左治郎成長まで石橋東三郎後見勤御敬の件	継紙	1	
179-5	〔書状〕	(江戸後期) 十月十七日	石田清右衛門	諸岡淳蔵様	梅崎並治郎殿長病につき、実子宇左治郎成長まで石橋東三郎後見の件に異存なきこと	継紙	1	
179-6	〔書状〕	(江戸後期) 十月十七日	吉田貞左衛門	鶴田治郎右衛門様	並治郎殿長病後見につき、諸岡様へ御相談御進状の趣には異存なきこと	切紙	1	
179-7	〔書状〕	(江戸後期) 二月廿一日	畑河内 宮崎庄左衛門	入野 諸岡淳蔵	貴組々拙組増進楮303貫目御付来るにつき御渡し願ひ	継紙	1	
179-8	覚	(江戸後期) 二月四日	中田礼二郎	右様々 御同勤様	唐津村御普請所へ石差出につき	継紙	1	包紙あり。包紙上書「大急触切木始々」
179-9	〔書付〕	(江戸後期) 同日			竹沢甚右衛門様へ蠟夫方人足1人差出のごと	切紙	1	
179-10	〔書状〕	(江戸後期) 二月四日	石田清右衛門	御組元	普請所見積り今日分出役の処、新規願なき村々へは罷出さること	切紙	1	
179-11	〔書状〕	(江戸後期) 二月四日	伊藤三平治	諸岡淳蔵様	目番勤の儀、御改の通り御咄合せのこと、山願代判にて敷書差出のこと	継紙	1	
179-12	〔書状〕	(江戸後期) 正月廿五日	入野分 幾平	於城下 諸岡淳蔵様	御用紙月御村々度々申遣せども今以調出なきこと、高申浦御用紙の件ほか	継紙	1	
179-13	口上	(江戸後期) 七月十一日	勝三郎	諸岡淳蔵様	別紙の通り申来るにつき代銀取計願ひ	切紙	1	

番号	表題	年代	作成	宛名	内容	形態	数量	備考
179-14	[書状]	(江戸後期) 八月十四日	吉田貞左衛門	御細元	長崎語交代郷夫の出立日限につき御尋ね	綴紙	1	
180	[防州焼物積荷難船につき書状など]	(江戸後期・7月)				一括	1	180-1～180-16紙組一括
180-1	[書状]	(江戸後期) 七月廿八日	鶴田治郎右衛門	納所二而 諸岡淳蔵様	戌亥両年普請人足他組大庄屋衆見分高を調へ出すよう申来れども、昨年分は分からざることほか、納所沖にて防州焼物積荷難船の件につき出役すべきところ、足痛にてできざること	綴紙	1	
180-2	[書状]	(江戸後期) 七月廿七日	田野 伝蔵	納所二而 諸岡淳蔵様	別紙の通り馬渡嶋納め申す件につき伺い、	綴紙	1	
180-3	[書状]	(江戸後期) 七月廿八日	郡屋 理三郎	諸岡淳蔵様	向嶋御調向につき手使新右衛門遣すこと、西山御普請にて出津につき組合名代にても差立申すことほか、	綴紙	1	
180-4	[書状]	(江戸後期) 七月廿七日	今村 同良吾	納所二而 黒岩弘治郎殿	京泊調方何れも御病氣にて出役なきため、藤三郎殿相預り只今調中のこと	綴紙	1	
180-5	[書状]	(江戸後期) 七月廿七日	自京泊 日高清治	於納所二 諸岡淳蔵様	京泊出役につき高串浦分御出役下されるよう御取計いの件、親父体調相勝れず其上家内大病にて大困入のこと	綴紙	1	追而書2枚あり
180-6	[書状]	(江戸後期) 七月廿六日	菅津 勝三郎	於納所 諸岡淳蔵様	難船方にて京泊浦出役の件は体調不良などのため御断申すこと	綴紙	1	
180-7	[書状]	(江戸後期) 七月廿五日	寺浦 綱太	諸岡淳蔵様	難船につき出役の件、俣出津跡にて未だ罷せざるにつき出役せざること	綴紙	1	
180-8	[書状]	(江戸後期) 七月廿五日	高串 池田覚左衛門	納所 御回勤様	石原山御見分岡田様・秋山様昨夜入野御泊、今朝晴気始め南目御見分などにつき	綴紙	1	
180-9	[書状]	(江戸後期) 七月廿四日	鶴牧 鶴田治郎右衛門	納所二而 石田清右衛門様	焼物積荷難船の歩一につき御尋ね	綴紙	1	
180-10	[口上]	(江戸後期) 七月廿三日	吉田貞左衛門	石田清右衛門様	明朝出役につきそれまで難船出役御名代願い	綴紙	1	
180-11	[書状]	(江戸後期) 七月廿四日	諸岡淳蔵	於納所村二 石田清右衛門殿	腹痛にて難船乱荷穿鑿方につき京泊出役できざることほか	綴紙	1	追而書1枚あり (星賀謙三郎へ京浦出役御頼みの件)
180-12	[書状]	(江戸後期) 七月廿六日	鶴田治郎右衛門	諸岡淳蔵様	明朝淡付の件につき御尋、地方御出役様御持参の傘につき御尋	綴紙	1	
180-13	[書状]	(江戸後期) 七月廿六日	理三郎	諸岡淳蔵様	松平美護守様長崎表へ御通行の諸人足割合の件につき	綴紙	1	
180-14	[書状]	(江戸後期) 七月廿六日	郡屋 理三郎	於納所 諸岡淳蔵様	当月22日京泊浦破船につき書上、甚兵衛ほか破船積荷物につき書上	綴紙	1	
180-15	[書状]	(江戸後期) 7月)			去ル22日朝納所沖破船の積荷焼物につき沈向取揚りの件ほか	綴紙	1	
180-16	[書状]	(江戸後期・7月)				一括	1	181-1～181-14紙組一括
181	[難船などにつき書状]	(嘉永2年頃)				一括	1	
181-1	[書状]	(嘉永2年頃) 十月十一日	田野 伝蔵	御細方	筑州様御帰路人足履いの件、当村皆捐田願いにつき御検見願2冊へ御押印下さるべきことほか	綴紙	1	
181-2	[書状]	(嘉永2年頃) 十月十一日	当番 波多团兵衛	入野 諸岡淳蔵様	御組合田野村早捐田御見分の御助方につき庄屋衆御入本勝寺に御差出願い	綴紙	1	

番号	表題	年代	作成	宛名	内容	形態	数量	備考
181-3	〔書状〕	(嘉永2年頃) 十月十二日	自切木 川添治兵衛	諸岡淳藏様	下拙・八百大郎上須草へ到着のごと、眼病の症状の件、医者様も次第全体致すと御咄のこと、昨日切木を船宅のこと	継紙	1	
181-4	〔書状〕	(嘉永2年頃) 三月廿九日	富永敬吾	諸岡淳藏様	当浦孫四郎難波につき養育米御願いの件	切紙	1	
181-5	〔書状〕	(嘉永2年頃) 九月四日	高串 幾平	諸岡淳藏様	召連入の入選につき伺い	継紙	1	
181-6	覚	(嘉永2年頃) 八月廿二日	寺浦 綱太	御船元	月並届持せ遣わすこと、往米願・山切手願御奥印願い	継紙	1	
181-7	〔書状〕	(嘉永2年頃) 八月十四日	諸岡淳藏	郡屋 理三郎殿	当所難舟一件の荷物散乱調方に關し船主船頭納得致さざるにつき大混雜の次第のこと	切紙	1	
181-8	〔書状〕	(嘉永2年頃) 八月廿二日	理三郎	於納所ニ 諸岡淳藏様	浦山役所より村々願いの木品見分の御状到来につき御泊の手当てなどの件	継紙	1	
181-9	〔梅崎村水車運上などにつき書上〕	(嘉永2年12月)			嘉永2年分梅崎村水車改請印願ほか写	継紙	1	
181-10	〔書状〕	(嘉永2年頃) 八月廿二日	松尾兵左衛門	諸岡淳藏様	先日遠路御出役の御礼	切紙	1	包紙あり、包紙上書「入野 諸岡淳藏様 急役用 有浦 松尾兵左衛門」
181-11	〔書状〕	(嘉永2年頃) 七月七日	梅崎 並治郎	諸岡淳藏様	塚出氏より金子凡5匁借用の件につき御尋ね	継紙	1	
181-12	〔書状〕	(嘉永2年頃) 六月廿九日	勝三郎	諸岡様	勘兵衛春立錢東分各様中へ催促仕り2歩2未高調達につき指上のごとはか	切紙	1	
181-13	〔算用書付〕	(嘉永2年頃)				一括	1	181-13-1～181-13-3同折
181-13-1	覚	(嘉永2年頃)		右	諸岡氏・姉さま・茶四郎分ほか錢3貫476文につき算用書上	継紙	1	
181-13-2	覚	(嘉永2年頃) 四月九日		上	おつし分形附7尺2寸代418文につき	切紙	1	
181-13-3	覚	(嘉永2年頃) 三月廿三日	恵助	おかめさま	麦安1俵ほか代6貫850文のうち札23匁受取	継紙	1	
181-14	〔書状〕	(嘉永2年頃) 五月十八日	郡屋 勝三郎	於田野 諸岡淳藏様	中江札太郎より御扶持米御直しにつき覚1通到来の件	継紙	1	追面書1枚あり (御廻帳雑用名古屋分催促の件)。上書「於田野 諸岡淳藏様 急役用御直覧 郡屋 勝三郎」
182	〔御勝手方講金関係書状〕	(江戸後期・未カ・2月～5月)				一括	1	182-1～182-14紙紐一括
182-1	〔書状〕	(江戸後期・未カ) 五月十二日	御講掛 大庄屋	諸岡淳藏様	御講金御皆納せざるにつき筋遣い御支配の方へ御組合の内より御取立の件にほか	継紙	1	
182-2	〔書状〕	(江戸後期・未カ) 五月十三日	御講掛り 大庄屋	入野 諸岡淳藏様	御講金不納につき御支配へ難波の義御申上の件ほか	継紙	1	
182-3	〔書状〕	(江戸後期・未カ) 五月九日	伊藤三平治	諸岡淳藏様	御講金につき筋遣いの御申出の件	継紙	1	
182-4	〔書状〕	(江戸後期・未カ) 五月十四日	池田寛右衛門	諸岡淳藏様	近年不漁続きにより小前一同御講金御当り一度に出銭し難きにつき歎出の件	継紙	1	

番号	表題	年代	作成	宛名	内容	形態	数量	備考
1825	〔書状〕	〔江戸後期・未カ〕五月十一日	富永宗次右衛門	諸岡淳藏様	当浦難渡者勝ちにて日限迄に御講金取立て出来ざること、中村実藏義も3ヶ年歳納敷出の件	継紙	1	
1826	〔書状〕	〔江戸後期・未カ〕五月六日認	諸岡淳藏	御講懸 御同勤様	御講金につき筋遣い難渡申立ての件ほか	継紙	1	控え
1827	〔書状〕	〔江戸後期・未カ〕五月七日	諸岡淳藏	御講懸 御同勤様	御講金につき筋遣い難渡申立ての件ほか	継紙	1	端裏書「五月七日返事」。案文
1828	〔書状〕	〔江戸後期・未カ〕二月廿九日	御講掛 大庄屋	入野 諸岡淳藏様	御講金御組合分納方に関し相談あれども外組々夫々員数相極りたるにつき滞りなく御納願い、	継紙	1	
1829	〔書状〕	〔江戸後期・未カ〕二月十九日	伊藤三平治	諸岡淳藏様	未だ講注も定らず矢張掛戻しの事に心得申すことほか	継紙	1	
18210	〔書状〕	〔江戸後期・未カ〕二月十四日	伊藤三平治	諸岡淳藏様	御代役は三月になること、御評儀書写し差上げ申すことほか	継紙	1	
18211	〔書状〕	〔江戸後期・未カ〕二月廿二日	伊藤三平治	諸岡淳藏様	御講方一向外に相分らず、敷書も差出かね只今見合せ居ることほか	継紙	1	
18212	〔組講金御当書上〕	〔江戸後期・未カ〕三月二日			講金50両につき入野・犬頭(ほか)にて御当て	継紙	1	
18213	〔書状〕	〔江戸後期・未カ〕二月十四日	波田田兵衛	諸岡淳藏様	御講法の通りには混雑もあるにつき御下金年々割取に任りたきことなど、御問合せにつき御答	継紙	1	逆面書1枚あり(飛脚賃5匁御渡し願い)
18214	覚	〔弘化4年カ〕未二月	諸岡淳藏 [㊟]	御講御懸 御同勤様	吉田貞左衛門ほか6名、御勝手方御講金高蔵少につき御敷出のこと	折紙	1	
183	〔書状〕	〔江戸後期〕九月廿一日	宮崎庄右衛門	諸岡淳藏様	当年御組合増渡半紙87貫・白保141貫御当の助成御願の件につき	継紙	1	
184	〔書状〕	〔江戸後期〕十二月廿七日	自会所 中江礼太郎	御古宿二面 諸岡淳藏様	会所取立委取りまで差聞えに相成れ願い、ほか	継紙	1	
185	〔書状〕	〔江戸後期〕西十二月十六日	富田六之介	諸岡淳藏様	大根糸り干過ぎこわく相成るにつき急々御取寄せ願い、1匁に大根30本書700本となることほか	切紙	1	
186	〔用状〕	〔江戸後期〕九月廿四日	自星賀 守之助	諸岡淳藏様	御検地御役々様の御居・御泊り御当のごこと、有浦御渡海船間遣いにて今日鶴牧御見分なきこと	継紙	1	
187	〔書状〕	〔江戸後期〕正月廿三日	梅崎 藤三郎	御組本	別紙願書へ御居判願い、願文宜しからざれば御仕直し願い、	切紙	1	
188	〔書状〕	〔江戸後期・近代〕八月六日	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 塾頭	諸岡荒太郎様	久々御出塾もなきにつき御安否伺い倉四郎分金1歩駄竹御年貢不足の内として受取	切紙	1	
189	覚	〔江戸後期〕亥正月晦日	役場			切紙	1	
190	〔書状〕	〔江戸後期〕辰正月	八百屋 仁兵衛	諸岡様 尊下	近年仕入方難渡につき別紙目録分御引合せ御賃渡願い、	継紙	1	
191	〔書状〕	〔江戸後期〕二月十二日	守之助	御組元	御用紙月割五月迄半高も届かざるにつき日々奈言御合せ御沙汰の件、川岸の調へ明日持参致すこと	継紙	1	

番号	表題	年代	作成	宛名	内容	形態	数量	備考
192	〔書状〕	（江戸後期）三月廿八日	田野 伝藏	諸岡淳藏様	御用役願方の件につき御礼、年賦米調達方取附いにつき明日相納むべきことほか	継紙	1	
193	〔書状〕	（江戸後期）十二月四日	鶴牧 謙三郎	諸岡淳藏様	梅崎病死届取置の件、御勘定帳差上の件、並治郎病死につき村方年貢向大庄屋にて方難心添え取計いのことほか	継紙	1	
194	〔書状〕	（江戸後期）正月廿六日	富永幾平	御組本	当浦利八女房欠落につき帳外願の件	継紙	1	追而書1枚あり（去冬養育米貞藏のもの病死につき赤子方へ御届の件）
195	〔書状〕	（江戸後期）二月十二日	自入野 藤三郎	於納所 諸岡淳藏様	拙家一条につき御礼、旦那寺の寺替証書御願いの件	切紙	1	
196	〔書状〕	（江戸後期）正月廿九日	和多田 中江礼太郎	入野 諸岡淳藏様	月番方は来月昨日の五日迄相勤め申すこと、組合衆は是迄の通り御頼の件	継紙	1	
197	〔書状〕	（江戸後期）二月三日	自呼子 峯八十郎	入野 諸岡淳藏様	琉球人船舟当浦入津につき明後日入足10人取計いの願い	切紙	1	
198	〔書状〕	（江戸後期）五月十日	御廻役掛 大庄屋	諸岡淳藏様	郷会所へ御廻嶋御宿方諸枚銀御差出願い	継紙	1	
199	〔書状〕	（江戸後期）五月十日	高串 両庄屋	諸岡淳藏様	酒造株主清三郎申出につき書取差上、釣分印卸安書奥印入用につき御届印願い	切紙	1	
200	〔書状〕	（江戸後期）五月廿五日	田辺林右衛門	諸岡淳藏様	峰谷五左衛門殿へ雌鶏1羽進上進滞の件につき	継紙	1	包紙あり。包紙上書「入野村 大庄屋中田 辺林右衛門」
201	〔書状〕	（江戸後期）四月六日	鶴田治郎右衛門	諸岡淳藏様	宗旨人別御改御役々様近々御入込につき寄村の志対の件	切紙	1	
202	〔書状〕	（江戸後期）八月十日	白郡屋 鶴田治郎右衛門	納所二面 諸岡淳藏様	梅崎作五郎御用御付の件、明日の出津につき御尋ほか	継紙	1	
203	〔書状〕	（江戸後期）五月九日	御組元	吉田貞左衛門	掛出格83貫匁御役所へ調出し代錢受取たきにつき願書御認め此者へ御渡し願い	継紙	1	
204	〔書状〕	（江戸後期）八月十二日	理三郎	納所二面 諸岡淳藏様	御留替初御蔵前出役申来るにつき組内の交替日割の件	継紙	1	
205	〔書状〕	（江戸後期）八月十二日	理三郎	納所二面 諸岡淳藏様	村方役銭心配につき葛津庄兵衛方まで大豆15俵の道切手渡し願い、利作様方蔵昨夜相果て申すにつき米差語り心配の件	継紙	1	
206	〔書状〕	（江戸後期）三月十二日	富田六之介	諸岡淳藏様	先注文の刺身包丁出来につき御取り下さるべきこと、夫錢御取立分差送り願い	継紙	1	
207	〔書状〕	（江戸後期）三月九日	貴助	諸岡淳藏様	拙村伝吉水車願書御認め御加印願い、炭山元方替につき願い	継紙	1	
208	〔書状〕	（江戸後期）二月廿四日	田野 池田伝左衛門	諸岡淳藏様	明日の紙方拜借願の件につき	継紙	1	
209	〔書状〕	（江戸後期）正月十三日	葛津 日高清治	諸岡淳藏様	早朝出船にて間に合わざるつきかわらは外方へ御注文願い、	切紙	1	
210	〔書状〕	（江戸後期）三月七日	寺浦 綱太	諸岡淳藏様	猪口5つ此者へ御貸渡し願い	切紙	1	
211	〔書状〕	（江戸後期・6月頃）	伊藤三平治	（入野 諸岡淳藏）		一括	1	211-1～211-3同折

番号	表題	年代	作成	宛名	内容	形態	数量	備考
211-1	[書状]	(江戸後期) 六月廿五日	伊藤三平治	入野 諸岡淳藏様	前海鼠代勘定書ほか高申へ取集めのこと、不法の送り書・扱木御取調へなくば上分御容あることほか	切紙	1	
211-2	不足格	(江戸後期・6月頃)	(伊藤三平治)	(入野 諸岡淳藏)	入野ほかメ1710目書上	切紙	1	
211-3	覚	(江戸後期・6月頃)	(伊藤三平治)	(入野 諸岡淳藏)	三蔵・浅右衛門分ほか權本2万8334本書上	切紙	1	
212	[書状]	(江戸後期) 十二月廿九日	松尾兵左衛門	諸岡淳藏様	会所御出銭分出銭願い、格代御立用取計い出来ざること	切紙	1	
213	[朱算用書上]	(江戸後期)				一括	1	213-1、213-2同折
213-1	覚	(江戸後期)			大頭和作分ほかメ1石8斗8升など算用書上	継紙	1	
213-2	覚	(江戸後期)			米3石4斗につき差引書上、嘉介分米7斗1升ほか見立引書上	折紙	1	
214	[書状]	(江戸後期) 十二月四日	石田清右衛門	諸岡淳藏様	別紙願書に御印形願い、昨日申上置きの廿四文銭此者へ御渡し願い	切紙	1	
215	[書状]	(江戸後期) 正月十四日	伊藤三平治	諸岡淳藏様	去夏洪水にて拙組合田所其外破損につき明後16日座川内村御さし口へ御出浮願い	切紙	1	
216	[書状]	(江戸後期) 正月廿六日	伊藤三平治	諸岡淳藏様	明日よりの参会は欠席のこと、もし天々出津せざる時は姉さま御貸し願い	継紙	1	
217	[書状]	(江戸後期) 三月十八日	松尾兵左衛門	諸岡淳藏様	絵踏御役々様昨日貴組入込の件ほか	継紙	1	
218	[書状]	(江戸後期) 十二月朔日	日高清治	御組元	梅崎並治郎事長病のところ養生相叶わず死去のこと、埋式は明2日葛津浦にて行うこと	継紙	1	
219	[高申浦酒屋啓我人一件につき書状]	(江戸後期・4月12日)				一括	1	219-1、219-2同折
219-1	[書状]	(江戸後期) 四月十二日	伊藤三平治	諸岡淳藏様	高申浦酒屋において瓜ヶ坂村弥平次口論に及び、相手方へ疵付たる件につき	継紙	1	
219-2	[書状]	(江戸後期) 四月十二日	(諸岡淳藏)	(伊藤三平治)	高申酒屋にて口論に及び、相手方へ疵付たる件につき	切紙	1	案文。端裏書「返書 四月十二日」
220	覚	(江戸後期) 正月廿九日	紙懸り 大住屋	諸岡淳藏様	御用紙巻割につき 田野村買入様のうち椿239貫605匁御組台へ御渡し願い	切紙	1	
221	[書状]	(江戸後期・巴カ) 六月卅日	原野新藏、富田七介	諸岡淳藏様	因太郎殿当春以来大病につき御取締方の許儀の件、調達方出来さるにつき専公様も100匁助成願い	継紙	1	包紙あり。包紙上書「〔 〕様 急要用御玉覧 正口 富田七助 岩の 原野新藏」
222	[書状]	(江戸後期・巴カ) 七月九日	前田貫藏、原田理三郎	諸岡淳藏様	高野因太郎殿長病にて取統方難しきにつき御助勢願い	継紙	1	
223	[書状]	(江戸後期) 巳七月十日	諸岡淳藏	前田貫藏様、原田理三郎様	因太郎取統方の件、全く分家の訳に別紙書蒲・岩野へ御状御差送りの通り、私義当春以来大病にて弟藤之助代役御願いの件、禱金御加入などにより滞りなく先祖祭仕ることほか	切紙	1	案文
224	[書状]	(巴カ) 七月六日	因太郎	諸岡淳藏様		継紙	1	包紙あり。包紙上書「諸岡淳藏様 尊下御願用申上 高野 因太郎」

番号	表題	年代	作成	宛名	内容	形態	数量	備考
225	〔書状〕	(江戸後期) 十二月晦日	謙三郎	諸岡淳蔵様	尊役給未念につき此者へ御渡願い、炭山拝借の内分期雑費26文差上のごと	継紙	1	
226	〔書状〕	(江戸後期) 四月廿九日	鶴田治郎右衛門	諸岡淳蔵様	炭山方につき寺浦へ下御罷出るべき日頃の件、願山御見分後に出津致すこと	切紙	1	
227	〔書状〕	(江戸後期) 四月廿八日	千々賀 宮崎庄右衛門	諸岡淳蔵様	石出賢出銭甚だ難渋の件につき御頼み	継紙	1	
228	〔書状〕	(江戸後期) 三月十八日	寺浦 草野芳作	御組元	当村石炭下シ川欠10間余普請の件につき願い	継紙	1	
229	〔書状〕	(江戸後期) 十一月廿七日	波多藤三郎	諸岡淳蔵様	冬冬御歳物御返済滞りにつき御期弁を以て利分返済取旨願い	継紙	1	追而書1枚あり(御年喜向共諸上御方余計手前出じ分につき)。包紙あり。包紙上書「諸岡淳蔵様 大急用御答 波多藤三郎」
230	〔書状一括〕	(江戸後期・8月)				一括	1	230-1～230-5同折
230-1	〔書状〕	(江戸後期) 八月十日	鶴田治郎右衛門	納所二而 諸岡淳蔵様	日雇参るにつき入足御合賃銭取立て御出しの件につき	継紙	1	
230-2	覚	(江戸後期) 八月十日	理三郎	納所二而 諸岡淳蔵様	組十歳の普請入足1000人につき入野ほか村別不足調高書上	折紙	1	
230-3	〔書状〕	(江戸後期・8月)	理三郎	納所二而 諸岡淳蔵様	壁土採取場所につき伺い	切紙	1	
230-4	〔書状〕	(江戸後期) 八月九日	梅崎 並治郎	諸岡淳蔵様	作五郎一条につき御支配分追つて御沙汰あること、当地方取締りの件ほか	継紙	1	
230-5	〔書状〕	(江戸後期) 八月十日	理三郎	諸岡淳蔵様	御開初摺替は組中共に後川内定治御負となることほか	継紙	1	
231	覚	(江戸後期) 辰三月十九日	御代官役所 [㊟]	入野村 大庄屋中	「既夫没後六年春子嗣落立猶未罷」ほか、御詩興残らず拜吟のこと	切紙	1	包紙あり。包紙上書「急キ 入野村 大庄屋中 御代官役所」
232	〔書状〕	丁酉(天保8年か) 晩春日	向斐 拜稿 [㊟]	諸岡政矩君座右	御年貢方入用につき七二銭1貫目借用	折紙	1	包紙あり。包紙上書「復 諸岡政矩君座右 向斐 拜稿」
233	拜借証文之事	嘉永二年酉十二月	星賀村名頭 伊八 [㊟] 、同村庄屋 石田清石 [㊟] 、門 [㊟] 、入野 組大庄屋 諸岡淳蔵 [㊟]	紙方 御役所	手形為替米駄竹浦谷川重蔵へ相送り申すにつき、入野村米250俵分御免などにつき御礼	切紙	1	奥書あり(紙掛中江礼太郎)。
234	覚	(江戸後期) 亥十二月	御代官役所 [㊟]	(入野村)		切紙	1	包紙あり。包紙上書「道切手」
235	〔書状〕	(江戸後期) 三月十八日	伊藤三平治	諸岡淳蔵様	御免などにつき御礼	切紙	1	
236	口上	(江戸後期) 三月七日説	諸浦 恵七郎	入野 諸岡淳蔵様	土手祭り相済むにつき明日土手筋にて興行あるにつき皆々様御遊来願い	切紙	1	
237	〔書状〕	(江戸後期) 二月廿五日	新木場 大浦又八郎	於釣分 諸岡淳蔵様	炭山御見分御体泊雑費御差出の御沙汰あれども、拙方は持出御弁当の御害につき差出に及ばざること	切紙	1	
238	〔書状〕	(江戸後期) 二月十二日	鶴田治郎右衛門、草野 芳作	諸岡淳蔵様	ゆふ利三治地所取扱につき諸岡様へ御願いの件	継紙	1	
239	〔書状〕	(江戸後期) 三月三日	大浦又八郎	諸岡淳蔵様	御息女様初節句につき御礼儀一包呈上のごと	折紙	1	包紙あり。包紙上書「諸岡淳蔵様 尊下人々 御中 大浦又八郎」

番号	表題	年代	作成	宛名	内容	形態	数量	備考
240	〔書状〕	(江戸後期) 三月廿九日	飯屋 官藏	入野 諸岡淳藏様	砂代米3割下ヶに拙村小前に申談のところ、砂溜の者共難渋申出につき2割下ヶにて御渡し願ひ	継紙	1	包紙あり。包紙上書「入野 諸岡淳藏様 急要用 飯屋 官藏」
241	〔書状〕	(江戸後期) 二月廿八日	富永宗次右衛門	諸岡淳藏様	石炭山一条につき賑々御疲勞深察致すこと、徳分椿代御用金に相納申すにつき此者へ御渡願ひ、炭山町御見分御役人様御賄雜費の作はまか	継紙	1	
242	〔用状〕	(江戸後期) 三月三日	田野 伝藏	御細元	故障一条につき出役願ひ、新溜調方溜下夫積り増高につき伺ひ	継紙	1	
243	〔書状〕	(江戸後期) 二月廿一日	田野 伝藏	御出津先二而 諸岡淳藏様	駄竹浦へ郷口仕込みたるどころ、4本取揚ヶ申すにつき差上のごと	継紙	1	
244	〔書状〕	(江戸後期) 三月十三日	自駄竹 吉田守之助	諸岡淳藏様	和元金利分納入の節、不通用切符拾丸枚あるにつき引替申すべきこと	切紙	1	包紙あり。包紙上書「大庄屋中 赤子方役所」。包紙一部破損
245	〔書状〕	(江戸後期) 長三月十五日	赤子方役所	入野村 大庄屋中	昨日池田寛左衛門殿頼出につき御召御用等にて席達の御上忍召あらば嘉太郎へ仰付願ひ	切紙	1	
246	〔書状〕	(江戸後期) 三月九日	伝藏	諸岡淳藏様	「歳旦 御手洗やさら々清き初日の出」はまか	継紙	1	
247	〔発句書上〕	(江戸後期)	富秋拜			切紙	1	
248	〔書状〕	(江戸後期) 文月十日	林々 昌御城下 宮崎庄左衛門	徳求様	山和(カ)之巻御返上願ひ	切紙	1	
249	〔書状〕	(江戸後期) 十月廿八日	波多清三郎	諸岡淳藏様	御勝手方5朱利御下米72俵の調書作成につき明日出津願ひ	継紙	1	
250	〔書状〕	(江戸後期) 三月廿七日	波多清三郎	諸岡淳藏様	総詰御取につき御心配のこと、旦那寺印形・五人帳につき件に向ひ	継紙	1	
251	〔書状〕	(江戸後期) 十四日	日良坊	徳求様	施主富春・梅實「田嶋明神奉納」書上	切紙	1	
252	〔書状〕	(江戸後期)				一括	1	252-1～252-5同折
252-1	〔寛綴〕	(江戸後期・7月頃)				綴	1	252-1-1～252-1-3紙組一括
252-1-1	〔寛〕	(江戸後期) 七月四日	理三郎	諸岡様	田野一件御出役時の味噌醬油代のうち銀3貫78文受取願ひ	切紙	1	
252-1-2	〔寛〕	(江戸後期) 七月二日			扇代ほか合8貫490文書上	継紙	1	
252-1-3	〔寛〕	(江戸後期・7月頃)			布組練上丈1尺1ほか合8貫602文書上	継紙	1	
252-2	〔役用寛〕	(江戸後期・7月)			養育米御札相助めのことほか、7月24日出津につき	継紙	1	
252-3	〔寛〕	(江戸後期・7月)			養育御手形につき御札相助めのことほか	切紙	1	
252-4	〔算用書上〕	(江戸後期) 同(7月)五日			小妻代広作へ渡分2貫880文ほかにつき	切紙	1	前欠
252-5	〔断簡〕	(江戸後期)			「一七二二百匁 但金喜両、丸五匁」とあり	断簡	1	包紙み
253	〔寛〕	(江戸後期)			鎮治・女房・伴辰平ほかにつき助精妻1升ほか書上	切紙	1	
254	〔書状〕	(江戸後期) 五月十日	田野 野田伝左衛門	諸岡淳藏様	御問合せの件は「すれ村役人組頭共へ相尋ね申すこと	切紙	1	
255	〔書状〕	(江戸後期) 五月十九日	呼子 床生敬右衛門	入野 諸岡淳藏様	御番代様を御求も御差出の由につき、一両日中に給銀納入願ひ	切紙	1	

番号	表題	年代	作成	宛名	内容	形態	数量	備考
256	〔書状〕	(江戸後期) 五月三日	勝三郎	諸岡様 諸岡淳蔵	今朝私手漁のすゞき一本連上のごこと 役用錢雜費・勘定の受払の件につき 御用	切紙	1	
257	〔書状〕	(江戸後期) 五月十六日	自入野 祐助	於田野 諸岡淳蔵様	持添入質方の成就につき御世話願 い、甚恥入る次第なれども米1俵大 當時御取替願ひはか	継紙	1	追而書1枚あり(明日拙村にて新田土手祭り 興行致すにつき案内)
258	〔書状〕	(江戸後期) 三月廿八日	田野 伝藏	諸岡淳蔵様		継紙	1	
259	〔役用書類一括〕	(江戸後期)				一括	1	259-1、259-2同折
259-1	覚	(江戸後期)			高申浦船宿方回国作帳・吉右衛門 家内商人の締打の件につき	切紙	1	
259-2	〔役用書上〕	(江戸後期)			会所出銭の事はか	切紙	1	
260	〔書状〕	(江戸後期) 三月六日	富永宗次右衛門	諸岡淳蔵様	宗門人別御役々様納御出の件、拙 宅手狭につき御星煙になるよう御繰 合願ひ、 鯉油1挺代12貫570文相納め申すべ きこと	継紙	1	追而書1枚あり(御星御菓子の具敷につき)
261	覚	(江戸後期)				切紙	1	
262	〔覚一括〕	(江戸後期・辰9月・10 月頃)	御代官役所	入野組 大庄屋中		一括	1	262-1～262-6包紙一括。包紙上書「入野組 大庄屋中 御代官役所」
262-1	覚	(江戸後期) 辰九月九日	御代官役所⑩	月番 大庄屋中	入野村大庄屋諸岡荒太郎御用ある につき罷出すべきこと	継紙	1	
262-2	覚	(江戸後期・辰カ) 十月 九日	御代官役所⑩	入野組 大庄屋中	新木場村伝吉ほか34名御用あるにつ き庄屋・名頭并親類組合兼惣名代 10人差副え罷出すべきこと	継紙	1	
262-3	覚	(江戸後期・辰カ) 十月 九日	御代官役所⑩	入野組 大庄屋中	入野村秀作ほか20名御用あるにつ き庄屋・名頭并親類組合兼惣名代 11人差副え罷出すべきこと	継紙	1	
262-4	覚	(江戸後期) 辰十月九日	御代官役所⑩	入野村 大庄屋中	入野村福次郎ほか4名御用あるにつ き庄屋・名頭并親類組合兼惣名代 11人差副え罷出すべきこと	継紙	1	
262-5	覚	(江戸後期) 辰十月九日	御代官役所⑩	入野村 大庄屋中	納所村治作ほか2名庄屋・名頭差副 え罷出すべきこと	切紙	1	
262-6	覚	(江戸後期・辰カ) 六月 十九日	御代官役所⑩	入野組 大庄屋中	京泊り浦兼庄屋日高清治ほか3名 御用あるにつき罷出すべきこと	継紙	1	
263	覚	(江戸後期・辰) 七月廿 二日	御普請方役所⑩	今村組⑩、有浦組 ⑩、入野組、切木 組、大庄屋中	急入用につき来巴御定用竹伐出し相 届けけるべきこと	切紙	1	包紙あり。包紙上書「今村組 御普請方役 所」。包紙後筆「先々 大庄屋中」
264	〔覚一括〕	(江戸後期・5月・6月)	(御代官役所ほか)	(入野村大庄屋中)		一括	1	264-1、264-2包紙一括。包紙上書「入野村 大 庄屋中 地方役所」
264-1	覚	(江戸後期) 六月十一日	御代官役所⑩	入野村 大庄屋中	其組合小前番合一件につき口書向 引合申さざる件につき罷出すべきこ と	継紙	1	
264-2	覚	(江戸後期) 五月廿五日	地方役所⑩	入野村 大庄屋中	鹿山御用向あるにつき罷出すべきこ と	切紙	1	
265	覚	(江戸後期) 六月廿三日	地方役所⑩	入野村 大庄屋中	高申浦石段山急速取調へ申出すべき こと	切紙	1	包紙あり。包紙上書「入野村 大庄屋中 地 方役所」
266	〔覚一括〕	(安政3年カ・4月・5月)	(御代官役所)	(入野組 大庄屋 中)		一括	1	266-1～266-3包紙一括。包紙上書「入野組 大庄屋中 御代官役所」

番号	表題	年代	作成	宛名	内容	形態	数量	備考
266-1	覚	(安政3年カ) 五月廿六日	御代官役所⑩	入野組 大庄屋中	高津浦庄屋日高清治ほか3名御用あるにつき名頭1人宛差副え罷出すべきこと	切紙	1	
266-2	覚	(安政3年カ) 五月廿六日	御代官役所⑩	入野組 大庄屋中	駄竹浦谷川重藏御用あるにつき名頭差副え罷出すべきこと 天保12丑年・嘉永4亥年何用の船難場および入用何程かなど取調へ申すこと	切紙	1	
266-3	覚	辰 (安政3年カ) 四月			今日勤廻り御役人様御休につき出勤すべきところ第大病につき出来ざる	切紙	1	
267	[書状]	(江戸後期) 正月九日	晴氣 治三郎	御組合 御勤様	御普請方御役所々組々大庄屋衆役高木皆納につき御褒美として鳥目2貫文下賜のこと	切紙	1	
268	[書状]	(江戸後期) 正月七日	大浦又八郎	御組元	徳分格代明日御願い申したきにつき書付に御加判願い	切紙	1	
269	[書状]	(江戸後期) 二月廿二日	高串 池田覚左衛門	於田野 諸岡淳藏	昨日組合御用・御用金納の件につき伺い	切紙	1	
270	[書状]	(江戸後期) 二月廿二日	郡屋 理三郎	於田野 諸岡様		切紙	1	
271	[書状]	(江戸後期) 午十二月朔日	紙方⑩	入野村 大庄屋中	当御用紙春以来不納の件につき	切紙	1	包紙あり。包紙上書「入野村 大庄屋中 紙方役所」
272	[発句書上]	(江戸後期)	老 日良坊 拜⑩		「歳旦」・「年柑家事を讀りて」と題して2句書上	切紙	1	
273	[書状]	(江戸後期) 正月十六日	自郡屋 芳作	諸岡様	御調金大延引の件、いつれ20日前後に御返送致すことほか	切紙	1	追而書1枚あり (星賀へ年始に罷越し只今郡屋へ立寄り居ること)
274	[薬刈につき書状一括]	(江戸後期・正月頃)	(松岡藤右衛門ほか)	(諸岡淳藏)		一括	1	274-1、274-2同折
274-1	[書状]	(江戸後期) 正月十一日	松岡藤右衛門	諸岡淳藏様	前海鼠取上ケ方に差支えなどにつき薬伐口明ケ来る18日に申付けたきこと、向嶋・駄竹瀬論一件につき御組合へも宣敷御伝え願い	切紙	1	
274-2	[書状]	(江戸後期) 正月十一日	日高清治	諸岡淳藏様	仮屋浦より前海鼠漁事差支えにつき薬伐口明差延たき旨問合せの件	切紙	1	
275	覚	(江戸後期・4月頃)			小前ノ者8人向嶋役場にて過言・踏荒しの件、口明の許可の件ほか	切紙	1	
276	[近世]	(江戸後期) 十二月十日	新木場 大浦又八郎	諸岡淳藏様	眼病にて出張不参のこと、御手形御売却延引につき御払出の件	切紙	1	
277	[書状]	(江戸後期) 弥生廿二日	やよ拜	御姉様	入野御縁談の件につき御返事願い	切紙	1	封筒あり。封筒上書「いりの御姉様 御元へまいる きりこ やよ拜」
278	覚	(江戸後期) 閏四月三日	御代官役所⑩	入野組 大庄屋中	納所村・鶴牧村引移りにつき諸帳面類引渡しの際	切紙	1	包紙あり。包紙上書「入野村 大庄屋中 御代官所」
279	[書状]	(江戸後期) 十一月十二日	田野 伝藏	諸岡淳藏様	新古楮御見分につき帳面引替御見分受けたき件ほか	切紙	1	
280	[諸浦村洪水につき書状一括]	(江戸後期・未・5月)				一括	1	280-1～280-6紙紐一括
280-1	[書状]	(江戸後期・未) 五月廿一日	板木 松岡藤右衛門	諸浦御出役先 諸岡淳藏様	去リ16日洪水にて諸浦大間数ヶ所破損につき修繕普請のため趣夫差出方御方の件ほか	切紙	1	

番号	表題	年代	作成	宛名	内容	形態	数量	備考
2802	〔書状〕	(江戸後期・未) 五月廿二日	山村伝兵衛	諸岡淳藏様	組合佐賀川内村洪水にて川土手切れ水洗砂押田普請所多分出来につき明日御見分御出役願ひ、諸浦大破の普請願は御談合の上差出すべきことほか	継紙	1	
2803	〔書状〕	(江戸後期・未) 五月廿二日		松岡様	去ル16日洪水にて諸浦村大開土手数ヶ所大破につき出役の件ほか	継紙	1	案文
2804	〔書状〕	(江戸後期・未) 五月廿一日	□□や 両人	□次一統(カ)		継紙	1	案文
2805	〔諸浦洪水普請につき書状一括〕	(江戸後期・未) 5月28日・29日			別紙昨々神田へ罷出申す筈のところ状番取違ひにて延引のこと	一括	1	2805-1、2805-2同折
2805-1	〔書状〕	(江戸後期・未) 五月廿八日	峯泰三郎	諸岡淳藏様	諸浦村川土手数ヶ所相切れたるにつき越夫大凡1800人割合せ・普請様見分のため御出役願ひ、	継紙	1	
2805-2	〔書状〕	(江戸後期・未) 五月十九日	市中分 波多藤三郎	諸岡淳藏殿	書土井ほか破損箇所につき人足など書上	継紙	1	
2806	〔諸浦村洪水破損箇所手当て願〕	(江戸後期) 未5月	庄屋	南役所	眼病につき御買入大豆渡京泊出役出来ざること	継紙	1	
281	〔書状〕	(江戸後期) 十二月十一日	新木場 大浦又八郎	御組元	晴気分60俵は今夕迄に糶屋より御手形当方へ参る筈のこと、当村別納夫食5ヶ年納入の件	切紙	1	
282	〔書状〕	(江戸後期) 十二月十一日	田野 池田伝藏	諸岡淳藏様	御手形御用あるにつき名頭入差添え罷出すべきこと	継紙	1	
283	覚	(江戸後期) 二月三日	御代官役所⑨	入野組 大庄屋中	御年貢米御蔵納方につき納名頭重太郎・孫作取調への件、御如米仕直し御蔵納の件	切紙	1	包紙上書「急入野村 大庄屋中 御代官役所」
284	申上口上覚	(江戸後期)			入野村御年貢米250石蔵納のうち御如米15石仕直し御蔵納の件	継紙	1	
285	以書付御内分申上候事	(江戸後期) 冬十二月	一判	当なし	御縁談の件につき宗田様より御咄ある旨諸浦から伝言のこと	継紙	1	案文
286	〔縁談につき書状一括〕	(江戸後期・6月11日・21日)			御縁談の件につき宗田様より御咄ある旨諸浦から伝言のこと	一括	1	286-1、286-2封筒一括。封筒上書「諸岡淳藏様 尊下御直 吉田守之助」
286-1	〔書状〕	(江戸後期) 六月廿一日	吉田守之介	御伯父様	御縁談の件につき宗田様より御咄ある旨諸浦から伝言のこと	継紙	1	
286-2	〔書状〕	(江戸後期) 六月十一日	宗田丹太郎	瀬戸掛助様	御年貢米御蔵納方につき納名頭重太郎・孫作取調への件、御如米仕直し御蔵納の件	切紙	1	
287	〔書状〕	(江戸後期) 正月廿五日	渡辺満之介	右木村、入野村 石村々、大庄屋中	福寛玄甫と申す医師、大石町御帳面付け不備につき当方へ掛紙しよう申付け	継紙	1	包紙あり。包紙上書「入野村 大庄屋中 大急用 渡辺満之介」
288	〔書状〕	(江戸後期) 十二月五日	大浦元太郎	諸岡淳藏様	当御年貢米船廻次第引合願ひ、別納通此者へ御貸渡願ひいほか	継紙	1	
289	〔書状一括〕	(江戸後期)				一括	1	289-1～289-6紙紐一括
289-1	〔書状〕	(江戸後期) 九月十四日	池田寛右衛門、富永宗次右衛門	諸岡淳藏様	御講金納滞りなく普請取につき御礼、日延敷願赤木へ御頼の件	切紙	1	
289-2	〔書状〕	(江戸後期) 九月十一日	諸岡淳藏	御城下二面 山村 忠右衛門様	御買入大豆代の件につき権現丸積入・大豆直段の件など	切紙	1	
289-3	〔書状〕	(江戸後期) 八月十一日	諸岡淳藏	山村 御納金不納につき不足金調達の件		継紙	1	

番号	表題	年代	作成	宛名	内容	形態	数量	備考
289-4	〔書状〕	(江戸後期) 九月十三日	大浦 俊平	諸岡淳藏様	此間御挨拶申し請けたる浜の田新田の件、当村宇平次の不埒の件ほか御挨拶御役々様の御道筋御知らせ願ひ	綴紙	1	
289-5	〔書状〕	(江戸後期) 九月十一日	田野 池田伝造	諸岡淳藏様		切紙	1	
289-6	〔書状〕	(江戸後期) 九月十日	田野 池田伝造	諸岡淳藏様	御挨拶地方御名代の件につき前海岸取揚調は是迄の取揚場のほか此先の取揚の模様も書上申すこと	綴紙	1	
290	〔書状〕	(江戸後期) 三月二日	高串 幾平	御組本		綴紙	1	
291	〔覚一括〕	(天保期頃)				一括	1	291-1～291-10紙組一括
291-1	覚	(天保期頃) 八月廿一日	紙方役所⑨	入野組 大庄屋中	其村余楮につき紙掛庄屋共仲引仕る儀あるにつき役所へ罷出すべきこと	切紙	1	包紙あり。包紙上書「入野組 方役所」
291-2	覚	未(天保6年) 閏七月十九日	御代官役所⑨	入野組 大庄屋中	御用向あるにつき明後21日罷出すべきこと	切紙	1	包紙あり。包紙上書「入野組 代官役所」
291-3	覚	(天保期頃) 十二月廿三日	紙方役所⑨	入野組 大庄屋中	紙漉共10丸以上皆済日取取調へ差出すべきこと	綴紙	1	包紙あり。包紙上書「入野村 方役所」
291-4	覚	(天保期頃) 戌十一月晦日	御代官役所⑨	入野村 大庄屋中	高串浦五郎兵衛ほか御用あるにつき罷出すべきこと	綴紙	1	
291-5	覚	(天保期頃) 子十二月十三日	御代官役所⑨	入野組 大庄屋中	其組合村々当御年貢米納方不納もあるにつき定日まで差急ぎ相納むべきこと	切紙	1	包紙あり。包紙上書「入野組 代官役所」
291-6	覚	(天保期頃) 子十二月九日	御代官役所⑨	入野組 大庄屋中	高串浦約分庄屋数吾・同人竹幾次郎御用あるにつき大庄屋・石頭差添え罷出すべきこと	綴紙	1	包紙あり。包紙上書「入野村 代官役所」
291-7	覚	(天保期頃) 子十一月十一日	石炭方(岩附庄藏、金沢勝藏)	入野村 庄屋中	其村石炭山御用向あるにつき炭山元方への召連れ罷出すべきこと	綴紙	1	包紙あり。包紙上書「差急候御用向ニ付組連二回早々相届可申候 入野村 庄屋中 岩附庄藏 金沢勝藏」
291-8	覚	(天保期頃) 子十月五日	御代官役所⑨	入野組 大庄屋中	船頭善左衛門下関へ米求めに罷越すにつき駄竹浦預り輒柱代の金子調達すべきこと	切紙	1	包紙あり。包紙上書「入野村 代官役所」
291-9	〔覚〕	(天保期頃) 子十月晦日	御代官役所	入野村 大庄屋中	御武具方納込矢竹相納むべきこと	切紙	1	包紙あり。包紙上書「入野村 代官役所」
291-10	覚	(天保期頃) 子十一月四日	坂口守之助	入野村 大庄屋中	風損木相改めにつき村役入人鶴牧村堀へ指出すべきこと	切紙	1	包紙あり。包紙上書「入野村 代官役所」
292	〔書状〕	(江戸後期) 丑二月廿日	原田右京 直孝(花押)	諸岡淳藏様 人々御中	年頭挨拶、入門のため府内官医佐藤清庵を尋ねしことほか	綴紙	1	包紙あり。包紙上書「於肥前普津入整村 諸岡淳藏様 要用御直披 原田右京 平安」。包紙裏上書「従豊後府内茶屋町 二月廿八日 発」
293	〔書状〕	(江戸後期) 十月十八日	田野 伝藏	諸岡淳藏様	御挨拶御役人様北方御移り御模様いまだ相分らざる件、早稲跡皆損・立毛の取扱ひの件ほか	綴紙	1	
294	〔書状〕	(江戸後期) 十二月晦日	自番 大庄屋	宮崎庄左衛門様	別紙の通り申来る件につき	切紙	1	
295	〔納金などにつき書状一括〕	(江戸後期・9月～11月)	新木場 貫助	諸岡淳藏		一括	1	295-1～295-3紙組一括
295-1	〔書状〕	(江戸後期) 十一月廿六日	新木場 貫助	諸岡淳藏様	石炭山拜借の件、佐野様明日より出津の件ほか	綴紙	1	
295-2	〔書状〕	(江戸後期) 九月廿九日	新木場 貫助	於□中 諸岡淳藏様	地方御借米代につき利付にて半金拜借願ひ	綴紙	1	

番号	表題	年代	作成	宛名	内容	形態	数量	備考
295-3	〔書状〕	(江戸後期) 九月七日夜	新木場 貫助	諸岡淳藏様	紙流出奔仕るにつき非常の都合せを以て金納せしこと、地方御役所納金は取立・調達も困難につき手納し置きこと	綴紙	1	
296	〔博奕一件書付一括〕	(安政5年2月頃)				一括	1	296-1～296-4紙帯一括
296-1	〔博奕取調べなどにつき覚〕	(安政5年2月3日、25日)	御代官役所	入野組 大庄屋中		一括	1	296-1-1、296-1-2包紙一括、包紙2枚あり。外包紙上書「入野組 大庄屋中 御代官役所」。内包紙上書「急 入野組 大庄屋中 御代官役所」
296-1-1	覚	(安政5年) 午二月三日	御代官役所⑩	入野組 大庄屋中	大頭新田吉三郎(吉太郎) 手慰み致すにつき明後5日始末申出るべきこと	切紙	1	
296-1-2	覚	(安政5年) 午二月廿五日	御代官役所⑩	入野組 大庄屋中	東裏町直四郎借名にて大頭新田吉太郎手慰み致すにつき取調べ申出るべきこと	切紙	1	
296-2	差上申口上書之事	安政五年正月	右永四郎	大庄屋宛	船倉村永四郎手慰み致すにつき	綴紙	1	
296-3	〔口上書〕	(安政5年2月頃)			大頭新田吉太郎事吉右衛門手慰み致すにつき	綴紙	1	
296-4	〔博奕・窃盗につき口上覚〕	(安政5年2月頃)				一括	1	296-4-1、296-4-2同折
296-4-1	申上口上覚	(安政5年2月頃)				綴紙	1	案文
296-4-2	乍恐御内分申上口上覚	(安政5年2月頃)			大頭新田吉太郎事吉右衛門手慰み致すにつき	綴紙	1	案文
297	〔書状〕	(江戸後期) 五月十三日	田野 伝藏	諸岡淳藏様	入野村金兵衛隣家にて御米盗取につき切木分御返書到来のこと、明日何時頃分御出浮かは分からざること	切紙	1	
298	〔書状〕	(江戸後期) 二月十三日	鶴田治郎右衛門	諸岡淳藏様	溜木歩懸は四歩通り申受くるよう談合のこと	切紙	1	
299	〔書状〕	(江戸後期) 正月廿八日	喜津	御組元	願の通り御用紙御返し申すこと	切紙	1	
300	〔書状〕	(江戸後期)			口明後の夜流しは先列なれども、俵物立方に差支え浦々申出するにつき聞合せ	切紙	1	案文。前次
301	覚	(江戸後期) 巳六月	御代官役所⑩	入野組 大庄屋	権先立・鎌田四郎右衛門ほか巳年権兵衛割付書上	綴紙	1	包紙あり。包紙上書「入野組 大庄屋中 御代官役所」
302	〔年始初廻願立〕	(江戸後期)				一括	1	302-1～302-4紙帯一括
302-1	〔年始願立〕	(江戸後期) 申正月二日	諸岡淳藏	梅晴□□		綴紙	1	端裏書「申初廻年始願立」
302-2	〔年始願立〕	(江戸後期) 未正月二日	諸岡淳藏			綴紙	1	端裏書「年始 初廻 願立」
302-3	〔初廻願立〕	(江戸後期) 子(正月)	諸岡淳藏			綴紙	1	端裏書「子初廻願立」
302-4	〔年始願立〕	(江戸後期) 酉正月二日	諸岡淳藏	晴梅上□		綴紙	1	
303	覚	(江戸後期) 子二月廿七日	御代官役所⑩	入野村 大庄屋中	御蔵納名頭重大郎御米の件を申出さる件につき取調べ申すこと	綴紙	1	包紙あり。包紙上書「入野組 大庄屋中 御代官役所」
304	〔書状〕	(江戸後期) 十一月三日	鈴木宜三兵衛	諸岡達内様	給入忠臣蔵借用願い	綴紙	1	包紙あり。包紙上書「入野村 諸岡達内様 鈴木宜三兵衛」
305	覚	(江戸後期) 巳五月三日	御代官役所⑩	入野組 大庄屋中	有之事之節入足面附帳状即刻差出すべきこと	綴紙	1	包紙あり。包紙上書「未上刻出ス 入野村 大庄屋中 御代官役所」
306	覚	(江戸後期) 四月廿七日	御代官役所⑩	入野組 大庄屋中	有事雜兵割付帳名面割付取調べ持参すべきこと	綴紙	1	包紙あり。包紙上書「午上刻出ス 入野組 大庄屋中 御代官役所」

番号	表題	年代	作成	宛名	内容	形態	数量	備考
307	覚	(江戸後期) 二月廿一日	岡田敏太夫 [㊟]	入野組 大庄屋中	遅納早々持参罷出すべきこと	切紙	1	包紙あり。包紙上書「未上刻出ス 入野村大庄屋中 御代官役所」
308	[書状]	(江戸後期) 五月廿六日	石田清右衛門	諸岡淳蔵様	増進御用紙の納入の件につき 伯父次第に全快仕り、大宰府へ相廻り引取りにつき24日須恵へ着くよう迎え遣すこと	継紙	1	
309	[書状]	(江戸後期) 十月廿二日	八百太郎	諸岡淳蔵様	当浦美蔵方故障の節、雜費瓜ヶ坂へ申遣しの件	継紙	1	追而書1枚あり (難民金御手形引替の件)
310	[書状]	(江戸後期) 十一月十八日	高串 幾平	諸岡淳蔵様	御中間中へ組出不足につき郷夫4人郷会所へ御差出願い	継紙	1	
311	[書状]	(江戸後期) 正月晦日	郷夫掛 大庄屋	入野 諸岡淳蔵様	御中間中へ組出不足につき郷夫4人郷会所へ御差出願い	継紙	1	
312	[書状]	(江戸後期) 二月四日	大浦元太郎	諸岡淳蔵様	掛村茂治兵衛赤木村入百姓に願出の件、村方へんと申者近辺畑物盗取るなど所行宜しからざる件ほか	継紙	1	
313	[書状]	(江戸後期) 正月拾二日	日高清治	諸岡淳蔵様	石橋東太殿・同東三郎殿御違書差出のこと	継紙	1	
314	[書状]	(江戸後期) 正月十三日	石田清右衛門	諸岡淳蔵様	郷人用につき向へ島に遣せども、是迄郷取れる日和なきこと	切紙	1	
315	[書状]	(江戸後期) 正月廿八日	新木場 大浦元太郎	諸岡淳蔵様	郷夫の件御直に御取計い願い	切紙	1	
316	[書状・覚一括]	(江戸後期) 正月廿八日			先後代給方米不足致すにつき古借立用の件など	一括	1	316-1、316-2同折
316-1	[書状]	(江戸後期) 辰二月廿一日	双水 菊池貫助	諸岡淳蔵様	御口入錢のうち七二錢246匁7分返済のこと	継紙	1	
316-2	覚	(江戸後期) 辰二月廿一日	諸岡淳蔵 [㊟]	菊池貫助様	燎物進上のこと	切紙	1	
317	[書状]	(江戸後期) 九月廿日	吉田貞左衛門	諸岡淳蔵様	谷川より鹿盆差上の件につき	継紙	1	
318	口上	(江戸後期) 十一月九日	吉田貞左衛門	諸岡様	為替米160俵の都合致し差遣し申すこと	切紙	1	
319	[書状]	(江戸後期) 冬十一月廿四日	吉田貞左衛門	諸岡淳蔵様	別紙の通り出石引当拝借願い、当浦元方は呼子浦常五郎名講のどところ当春より真吉・金助へ引譲りのこと	切紙	1	
320	口上	(江戸後期) 十一月廿五日	浦分 池田覚左衛門	入野 諸岡淳蔵様	面三日中に御付入米引合の積りにつき催促のこと	切紙	1	
321	[書状]	(江戸後期) 十一月廿五日	瓜ヶ坂 山田林七	諸岡淳蔵様		継紙	1	
322	[書状など一括]	(江戸後期) 十一月頃				一括	1	322-1～322-3同折
322-1	[口上]	(江戸後期) 十一月廿六日	丁田 筆役	諸岡淳蔵様	高津様より書状到来のこと	継紙	1	
322-2	[書状]	(江戸後期) 十一月廿六日			御婚み申上げのことほか	切紙	1	案文。前次
322-3	[人名など書付]	(江戸後期) 十一月頃			平三郎・七蔵ほか	切紙	1	
323	[書状]	(江戸後期) 十二月廿三日	田野 伝蔵	諸岡淳蔵様	御手形15俵地方御役所へ御納願い	切紙	1	
324	[書状など一括]	(江戸後期) 正月・2月				一括	1	324-1～324-15紙組一括
324-1	[書状]	(江戸後期) 二月五日	大浦又八郎	諸岡淳蔵様	御書につき在志・菅田御氏受持3両高御切紙見受け申すことほか	切紙	1	

番号	表題	年代	作成	宛名	内容	形態	数量	備考
3242	〔書状・覚一括〕	〔江戸後期・正月29日〕				一括	1	3242-1, 3242-2同折
3242-1	〔書状〕	〔江戸後期〕 正月廿九日	自御役所 諸浦 祐助	諸岡淳蔵様	難民御下金の書付差上の件	綴紙	1	
3242-2	覚	〔江戸後期〕 正月廿九日	丹羽三右衛門	(諸岡淳蔵)	難民御救金御下ヶ残りの件	綴紙	1	
3243	〔書状〕	〔江戸後期〕 二月三日	山村伝兵衛	諸岡淳蔵様	普請所御見分御出役の件、来る6日佐里村出役の件	綴紙	1	後欠
3244	〔書状〕	〔江戸後期〕 二月三日	富永宗次右衛門	諸岡寛太郎様	臨遣亭御出役の件は先生家より一同出席致すよう申す来ること、性儀も帳面方片付次第出席致すこと	切紙	1	追而書1枚あり (紺屋富太郎出席につき差配願い)
3245	〔書状〕	〔江戸後期〕 二月二日	有浦 波多藤三郎	入野 諸岡淳蔵様	普請所御見分御出役の御名代の件は不快などにつき御代勤出来ざること	綴紙	1	
3246	〔書状〕	〔江戸後期〕 二月三日	田野 池田伝蔵	諸岡様	此包のもの、御町宿へ差上げられたことにつき受取願い	切紙	1	
3247	〔書状〕	〔江戸後期〕 正月廿五日	煖助	諸岡淳蔵様	御病氣次第に御願快の旨御知らせ下さるにつき近日参上致すこと	綴紙	1	
3248	口上	〔江戸後期〕 正月廿四日	煖助	諸岡淳蔵様	半田より客来助につき不沙汰せしこと、一両日中に御伺い申すことほか	綴紙	1	
3249	〔書状〕	〔江戸後期〕 正月廿九日	正津 清三郎	諸岡荒太郎様	御尊父様の体調につき伺い	切紙	1	
32410	稱荷堂〔普請料書上〕	〔江戸後期〕	喜右衛門	格治様	作料・材木代・釘代が17匁余につき品物1匁につき1貫800の相場にて購入願い	切紙	1	包紙あり (本紙と同折)。包紙上書「上 駄竹浦」
32411	口上	〔江戸後期〕 正月廿七日	岡本謙吾	諸岡淳蔵様		切紙	1	
32412	〔書状〕	〔江戸後期〕 正月十八日	溝嶋住 良吾	諸岡様	御国総廻手箱などにも見当らざること、見付次第に御町宿へ差出すこと26日御用につき罷下り漸々昨夕方引取のこと	綴紙	1	
32413	〔書状〕	〔江戸後期〕 正月卅日	伊藤三平治	諸岡淳蔵様	佐里村普請内見分代勤のこと、板木へ御問合御見分のため御出役願い	綴紙	1	
32414	〔書状〕	〔江戸後期〕 二月初日	坂口縫之助	諸岡淳蔵様	佐里村普請内見分代勤のこと、板木へ御問合御見分のため御出役願い	綴紙	1	
32415	〔書状〕	〔江戸後期〕 正月廿八日	板木 松岡藤右衛門	入野 諸岡淳蔵様	御注文の花鏡6寸竹の本数につき伺い、麻から少々御惠願い	綴紙	1	
325	〔書状〕	〔江戸後期〕 七月六日	富田幾平	諸岡淳蔵様	佐里村普請内見分代勤の件につき伺い、御注文の花鏡6寸竹の本数につき伺い、麻から少々御惠願い	綴紙	1	追而書1枚あり (御傍につき当浦付船穿鑿の件)
326	覚	〔江戸後期〕 丑五月十五日	御代官役所⑩	入野組 大庄屋中	石志村庄屋彦左衛門殿借米のうち薪木場買助慶請持分此者へ御渡し願い	切紙	1	包紙あり。包紙上書「入野組 大庄屋中 御代官役所」
327	〔書状〕	〔江戸後期〕 二月九日	徳末 松本退蔵	入野 諸岡淳蔵様		切紙	1	
328	〔書状〕	〔江戸後期〕 十二月廿二日	(板木) 富田六之介	(入野) 諸岡淳蔵様	榑崎御見舞誠に驚入りのこと、御式も御相続相済み先づ御安心のことほか	綴紙	1	包紙あり。包紙上書「入野 諸岡淳蔵様 大急役用組 板木 富田六之介」
329	〔書状〕	〔江戸後期〕 八月十八日	富田六之助	諸岡淳蔵様	高津栄三郎殿御見へ成られ酒株借用につき相談の件	綴紙	1	
330	〔書状〕	〔江戸後期〕 十一月廿六日	富田六之介	諸岡淳蔵様	別紙御普請役様御廻浦の次第につき問合せの件、加有里五反田書状の写し差上げのこと	綴紙	1	
331	〔書状〕	〔江戸後期〕 十一月廿二日	藤田啓蔵	重田正之助様	煎海風干鮑類出方につき御普請役川切料理兵衛様長崎会所役人御召連れ御廻浦の件	切紙	1	

番号	表題	年代	作成	宛名	内容	形態	数量	備考
332	〔書状〕	(江戸後期) 八月廿三日	自郡屋 鶴田治郎右衛門	納所二面 諸岡淳蔵様	山方御役人様昨日は並木斗り御見分御泊りの件はほか	継紙 一括	1	
333	〔書状一括〕	(江戸後期・4月24日)				継紙 一括	1	333-1、333-2同所
333-1	〔書状〕	(江戸後期) 四月廿四日	田野 池田伝左衛門	諸岡淳蔵様	役料減につき掛合の件、鯨油8升此者へ御渡し願ひ	継紙	1	
333-2	〔書状〕	(江戸後期) 四月廿四日	田野 伝蔵	諸岡様	別紙親父より申上げにつき差配願ひ、鯨油の升此者へ御渡し願ひ	継紙	1	
334	〔書状〕	(江戸後期) 四月十五日	諸岡淳蔵	今村 黒岩良吾様	船大工道具組継続りの件につき	切紙	1	控え
335	〔書状〕	(江戸後期) 十一月十九日	伊藤三平治	諸岡淳蔵様	盗難の模様につき伺ひ、月番・御用紙方巾着詰め昨夜四時を聞き帰宅のこと	継紙	1	
336	〔書状〕	(江戸後期) 三月十七日	伊藤三平治	諸岡淳蔵様	火急用向にて明日より肥後熊本迄罷越し申すにつき留守中万事差配願ひ、船様御用事あらば此元へ御知らせ願ひ	切紙	1	
337	〔書状〕	(江戸後期) 二月朔日	石田清右衛門	諸岡淳蔵様	貝2貫目差上のごと、代銀1貫目400文替にて御達のごと	切紙	1	
338	覚	(江戸後期) 午九月十三日	御代官役所⑩	入野組 大庄屋中	有事の節御先侍として御使番代高原櫻左衛門ほか6名書上	継紙	1	包紙あり。包紙上書「入野組 大庄屋中 御代官役所」
339	口上	(江戸後期) 二月七日	忠兵衛、嘉作	先生様	病中御見舞宛酒1樽御肴料差上のごと	継紙	1	別紙1枚あり(村方の世話にはならず、日雇賃銀600目余りにて成就すること)
340	〔書状〕	(江戸後期) 六月三日			当表愚母癪に相成ること、先日の御世話、御馳走の御礼ほか	継紙	1	
341	〔書状〕	(江戸後期) 六月十日	吉田守之助	諸岡荒太郎様	家内病中にて失敬仕るにつき程能御取成願ひ、眞所様御出津につき御尋ね	継紙	1	
342	〔書状〕	(江戸後期) 六月十四日	池田伝蔵	諸岡様	御出津の時間につき伺ひ	継紙	1	
343	覚	(江戸後期) 六月十一日	地方役所⑩	入野村 大庄屋中	入野村大庄屋・村役人、字四十手とんの木場辺長百姓河人御用あるにつき罷出すべきこと	切紙	1	包紙あり。包紙上書「急キ 入野村 大庄屋中 地方役所」
344	〔書状〕	(江戸後期) 無水月十八日	伊藤三平治	諸岡荒太郎様	暑中何方控方より取極め出津のごと、山方御見分の件はほか	切紙	1	
345	〔書状〕	(江戸後期) 十月廿五日	梅崎 並治郎	諸岡淳蔵様	親戚残らず知取の分扱筆に仕るにつき願紙へ奥印願ひ、作五郎御歎の件につき伺ひ	継紙	1	
346	〔覚一括〕	(江戸後期・辰3月)	御代官役所	入野組 大庄屋中		一括	1	346-1～346-4包紙一括。包紙上書「入野組 大庄屋中 御代官役所」
346-1	覚	(江戸後期) 辰三月五日	御代官役所⑩	入野組 大庄屋中	梅崎村庄屋宇大郎御用あるにつき名頭差添え罷出すべきこと	切紙	1	
346-2	覚	(江戸後期・辰) 三月三日	御代官役所⑩	入野組 大庄屋中	駄竹浦谷川源石衛門ほか34名御用あるにつき庄屋差副え罷出すべきこと	継紙	1	
346-3	覚	(江戸後期・辰) 三月四日	御代官役所⑩	入野組 大庄屋中	高津浦庄屋日高清治・晴氣浦庄屋千三郎御用あるにつき名頭差副え罷出すべきこと	切紙	1	
346-4	覚	(江戸後期・辰) 三月三日	御代官役所⑩	入野組 大庄屋中	納所村庄屋吉田馬之助ほか10名御用あるにつき名頭差副え罷出すべきこと	継紙	1	

番号	表題	年代	作成	宛名	内容	形態	数量	備考
347	覚	(江戸後期) 壬四月十四日	御代官役所⑩	入野組 大庄屋中	野竹浦谷川源石衛門藏金願書差出すべきこと	継紙	1	包紙あり。包紙上書「入野組 大庄屋中 御代官役所」
348	覚	(江戸後期) 十二月七日	御代官役所⑩	入野村 大庄屋中	御用あるにつき組合庄屋1人・名頭1人宛召連れ罷出すべきこと	切紙	1	包紙あり。包紙上書「入野組 大庄屋中 御代官役所」
349	(書状)	(江戸後期) 十月廿五日	菅津 日高清治	諸岡淳藏様	梅崎病気の件につき東小川氏・森氏と相談の件	切紙	1	
350	(書状)	(江戸後期) 十月五・六・七日	松尾兵左衛門	諸岡淳藏様	御検見皆損御願につき御案内帳差合せの件ほか	継紙	1	
351	(書状)	(江戸後期) 九月初日	大浦元太郎	御組元	長崎行き郷夫当村茂作昨夜引取のところ、別紙往來御切手持来るにつき外村が一所に御送上願い	切紙	1	
352	(書状)	(江戸後期) 十二月廿一日	富永宗次右衛門	諸岡淳藏様	当冬無類の不漁などにつき拙者出錢・御免起講掛戻し恩借願い	継紙	1	
353	(書状)	(江戸後期) 十二月廿一日	富永	諸岡様	御だん切此者へ御貸渡し願い	継紙	1	
354	覚	(江戸後期) 九月三日	紙方役所	入野組 大庄屋中	入野村助左衛門増進賞銭受取のため罷出するにつき皆納・皆済の旨をとくと申開べきこと	継紙	1	包紙あり。包紙上書「入野組 大庄屋中 紙方役所」
355	(書状)	(江戸後期) 四月十九日	高串 両庄屋	御組元	御用紙目御調査のこと、印刷なきにつき赤字方拜借証文御断り申すことほか	切紙	1	
356	(書状)	(江戸後期) 九月四日	寺浦 綱太	諸岡淳藏様	御検地并御免付御請書進し申すこと	切紙	1	
357	(書状一括)	(江戸後期・3月4日)				一括	1	357-1、357-2同折
357-1	(書状)	(江戸後期) 三月四日	伊藤三平治	諸岡淳藏様	別紙の通り黒川より申来るにつき出津願い	継紙	1	
357-2	(書状)	(江戸後期) 三月四日	(諸岡淳藏カ)		黒木米会につき切木より御問合せの件ほか	継紙	1	案文
358	(書状)	(江戸後期) 十一月廿二日	鶴田治郎右衛門	諸岡淳藏様	明後日迄には拙村取立仕るにつき為替願へ御印形願い	切紙	1	
359	(書状)	(江戸後期) 十一月廿三日	宮崎幸助	諸岡淳藏様	入米大凡34俵御心組の件、御組合物御引合せにつき伺い	継紙	1	
360	(書状)	(江戸後期) 二月八日	高津 日高清治	御組元 役用	別紙願書に御未判願い	継紙	1	
361	(書状)	(江戸後期) 十月朔日	宮崎下総	諸岡淳藏様	御家祈禱のため明日・明後日には罷出すべきこと	継紙	1	
362	(書状)	(江戸後期) 正月廿九日	謙三郎	御組元	紙方御役所より新帳の分納入すべきよう御抄汰の件	切紙	1	
363	(書状)	(江戸後期) 三月十一日	高串 幾平	諸岡淳藏様	久三郎藏金納入につき伺いほか	継紙	1	
364	(書状)	(江戸後期) 二月三日	梅さき 並治郎	諸岡淳藏様	作五郎大病のため町宿下ヶ御願見申したきにつき伺い	継紙	1	
365	(書状一括)	(江戸後期・11月18日)	寺浦 綱太	御組元		一括	1	365-1、365-2同折
365-1	(書状)	(江戸後期) 十一月十八日	寺浦 綱太	御組元	山切手願井石炭山願御奥印願い	切紙	1	
365-2	(書状)	(江戸後期) 十一月十八日	寺浦 綱太	御組元	去年遠見割其外指引に入用につき御写を此者へ御知らせ願い	切紙	1	

番号	表題	年代	作成	宛名	内容	形態	数量	備考
366	〔書状〕	〔江戸後期〕 十二月四日	高串 池田寛左衛門、 富永幾平	諸岡淳藏様	浦方不漁につき鯛網仕入として2貫目拝借の件	継紙	1	
367	覚	〔江戸後期〕 九月十九日	吉田貞左衛門	御組元	柏屋味噌入用に大豆2袋買入の件につき	継紙	1	
368	口上	〔江戸後期〕 三月廿五日	吉田貞左衛門	御組元	御組元兼方150匁借用分へ田野御造見米6斗余払入願ひ	継紙	1	
369	〔書状〕	〔江戸後期〕 十一月廿三日	菅津 日高清治	諸岡淳藏様	梅崎病氣につき藤三郎後見願書の件	継紙	1	
370	〔書状〕	〔江戸後期〕 四月廿四日	高串 富永敬吾	諸岡淳藏様	東太郎・桃太郎手傳迄々仕方につき、近辺歩行は出来るにつき御届認め方に関し伺ひ	切紙	1	追而書1枚あり(名頭を以て御届につき伺ひ)
371	〔書状〕	〔江戸後期〕 十二月廿九日	松尾兵左衛門	諸岡淳藏様	御出銭御延引の件につき別段御取計願ひ	継紙	1	
372	〔書状〕	〔江戸後期〕 九月二日	寺浦 綱太	諸岡淳藏様	普恩寺村へ飯村仰付けられ難有仕合せのこと	切紙	1	追而書1枚あり(普恩寺村草野氏は寺浦村飯村のこと)
373	〔書状〕	〔江戸後期〕 九月朔日	市宿分 守之助	諸岡淳藏様	寺浦・普恩寺村飯村仰付けられること、屋形石・丸田は帯刀御免、小友は苗字御免のこと	継紙	1	
374	〔書状〕	〔江戸後期〕 二月三日	石田清右衛門	御組元	普請所見届りに罷越すにつき昼・休泊など御触出願ひ、普請所調村の分此者へ御渡し願ひ	切紙	1	
375	〔書状〕	〔江戸後期〕 十一月廿四日	寺浦 綱太	於御城下 諸岡淳藏様	為替手形城下にて講取の筈につき明日引合せ申すべきこと	切紙	1	
376	〔書状〕	〔江戸後期〕 十二月晦日	幾平	諸岡淳藏様	村役人共より夫銭・役銭御受取願ひ	切紙	1	
377	〔書状〕	〔江戸後期〕 四月十二日	宮崎庄右衛門	諸岡淳藏様	600貫取高の件につき伺ひ、下請証文は御発宛の節に差上げ申すこと、御領分預借調帳の件ほか	継紙	1	
378	西之暮口入米算用	〔江戸後期〕 亥ノ二月廿一日	小兵衛	吉左衛門殿		継紙	1	端裏書「三拾六石九升六タノ米年賦二成ル御手形六百此文二有」
379	〔書状〕	〔江戸後期〕 四月十日	新木場 大浦又八郎	諸岡淳藏様	総踏御改御役々様今晩貴方御出座につき御用何として村役人差立のごとほか	継紙	1	
380	〔書状〕	〔江戸後期〕 二月廿七日	会所居合 御用勤	諸岡淳藏様	御役所へ差出の書付に御印判入用のこと	切紙	1	
381	〔郡中御用などにつき書状一括〕	〔江戸後期〕				一括	1	381-1～381-12紙組一括
381-1	覚	〔江戸後期〕 申十二月	役場	名頭中	郡中雜費ほか七二銀197匁6分4厘など取立のこと	継紙	1	
381-2	覚	〔江戸後期〕			入野村名頭2人・肝煎2人ほか村・浦別名頭・肝煎人数書上	折紙	1	
381-3	〔書状〕	〔江戸後期〕 拾月廿六日	自市中 諸岡淳藏	綱太殿	村方杉代の取立・算用などにつき	継紙	1	
381-4	〔書状〕	〔江戸後期〕 正月廿九日	伊岐佐 大久保五八郎	入野 諸岡淳藏様	御組合積子千貫目につき御割付格半高御渡しのため新堀土場へ受取人足差向申すべきこと	継紙	1	
381-5	〔書状〕	〔江戸後期〕 十二月廿一日	吉田貞左衛門	御組元	呼子寄組御口物代割其外積代差引の割賦銭につき	切紙	1	

番号	表題	年代	作成	宛名	内容	形態	数量	備考
381-6	〔書状〕	(江戸後期) 十二月廿一日	吉田貞左衛門	御組元	納所村諸代米・山方貫錢の銭高につき伺い、大御廻の節の廻4羽代720文のところ当所直段240文替につき不足銭御渡し願ひ	切紙	1	
381-7	〔書状〕	(江戸後期) 十二月廿一日	吉田貞左衛門	御組元		切紙	1	
381-8	〔書状〕	(江戸後期) 十二月廿一日	吉田貞左衛門	御組元	玉子30代195文御渡し願ひ	継紙	1	
381-9	以書付申上事	(江戸後期) 申十二月十一日	富永啓吾	御代官御役所	高串浦和三部療治のため掃村仰付らるにつき御札	切紙	1	前欠
381-10	〔薪入用書上〕	(江戸後期)			田代新松3本ほか	継紙	1	白紙1枚同折
381-11	〔書状〕	(江戸後期) 十二月廿一日	吉田貞左衛門	御組元	月並届の差上失念につき今日差上のごと	切紙	1	
381-12	〔白紙〕	(江戸後期)				切紙	1	
382	抽出控	(江戸後期) 十月廿五日	諸岡淳蔵	晴氣 星賀、納所、鶴牧、喜津、梅崎、寺浦、新木場、田野、高串 石村浦 庄屋衆中	河原者近頃組合へ入込みたる様子につき取付いなどの件	切紙	1	彌裏書「抽出控」
383	〔書状〕	(江戸後期) 二月三日	稲葉源平	諸岡淳蔵様	掛村久兵衛貴方石炭山入込の件、当春物喰費払底につき麦粟2、3俵調達	継紙	1	
384	〔書状〕	(江戸後期) 十月十六日			梅崎並治郎殿長痛につき実子成長まで石橋東三郎後見勤め御歌の件	継紙	1	
385	覚	(江戸後期) 四月七日			4月9日改昼喜津浦・京泊浦・鶴牧村など日別村浦名書上	切紙	1	
386	〔書状〕	(江戸後期) 四月七日	謙三郎	諸岡淳蔵様	今晚飯屋御泊り明朝卒形御移りなど日程の件、御手伝金差上の者へ御用の件	継紙	1	
387	〔書状〕	(江戸後期) 四月七日	有浦 波多清三郎	入野 諸岡淳蔵様	総踏御役々様今日飯屋御居当所御泊など日程の件ほか	切紙	1	
388	〔書状〕	(江戸後期) 四月十一日	富永宗次右衛門	諸岡淳蔵様	十左衛門一件御諭しの旨感服のことと、名代として成之助遣し申すこと	継紙	1	
389	〔書状〕	(江戸後期) 四月十日	鶴田治郎右衛門	諸岡淳蔵様	死人証文遣し申すにつき差配願ひ	継紙	1	
390	〔書状〕	(江戸後期) 四月十一日	伊藤三平治	諸岡淳蔵様	人別御改御役々様拙方御泊の御沙法の件につき	継紙	1	
391	〔書状など一括〕	(江戸後期)						391-1～391-14紙紐・包紙一括。紙紐墨書「八折奴」
391-1	〔書状〕	(江戸後期) 十一月六日	石田清右衛門	御組元	御褒美の鎌御印紙持たせ御役所へ引替に遣し申すことほか	切紙	1	
391-2	〔書状〕	(江戸後期) 十一月六日	諸岡内	おひ□□(な様か)	ちじみ繰り申すにつきをさかま御貸渡し願ひ	切紙	1	
391-3	〔書付〕	(江戸後期)			〔西年下札 一米〕とあり	切紙	1	
391-4	〔書付〕	(江戸後期)			幸作、丑年下札米2石余につき	切紙	1	
391-5	〔書付〕	(江戸後期)			東次郎、西年下札米1石余につき	切紙	1	
391-6	〔書状〕	(江戸後期) 十一月二日	吉田貞左衛門	御組元	別納通り差上のごと	切紙	1	

番号	表題	年代	作成	宛名	内容	形態	数量	備考
391-7	〔書付〕	(江戸後期)			「高志石二付五斗志升八合〇四才」などとあり	切紙	1	
391-8	〔書付〕	(江戸後期)			「志升共合 斗 志升」とあり	切紙	1	
391-9	〔書付〕	(江戸後期)			「夫食拜借」「新木場買輔殿 赤紙 歌人」などとあり	切紙	1	
391-10	〔書簡断簡〕	(江戸後期)	高串 富永敬吾	御組元		切紙	1	上部部分のみ
391-11	〔付箋〕	(江戸後期)			「志久二分 西」などと墨書あり	付箋	1	
391-12	覚	(江戸後期)			樋角代105宛ほか書上	切紙	1	
391-13	〔書簡〕	(江戸後期)	高串 富永敬吾	於郡屋星賀 勝次郎様	郡屋詰交書のものにつき	切紙	1	追而書1枚(白米1升遣し申すこと)あり
391-14	〔帳簿断簡など〕	(江戸後期)				一纏り	1	断簡3点
392	〔書状〕	(江戸後期)			「信之梅映出、折簡疊之声面白ク相聞、一人興を催し候」ほか	切紙	1	端裏書「諸岡氏 正月廿三日」。袖朱印「諸岡氏」
393	〔猪紙算用など綴〕	(江戸後期・丑正月～4月頃)		(諸岡亭藏様ほか)	積3796貫765匁につき久里組本渡渡など差引残高書上ほか	綴	1	覚・書状など紙紐綴、断簡2点・貼紙(「七メ」「四メ」)2点同折
394	〔笺句書上一括〕	(江戸後期)				一括	1	394-1、394-2同折
394-1	〔笺句書上〕	□□九月			「十三夜 浮雲もかわりて後の月見候」ほか	切紙	1	
394-2	〔笺句書上〕	同夕(カ)	柳里拜	桂菰雅君	「菊の香をくらへてすめり菰の穢」とあり	切紙	1	
395	〔書状〕	(江戸後期)			私無異学堂常請詰め仕りしこと、周易本義・近思錄拜受のこと	切紙	1	袖朱印「諸岡氏」
396	覚	(江戸後期) 未八月十五日		和多田組 大庄屋中	御武具御役所定式御入用につき込組浦代本納につき求着次第相納むべきこと	綴紙	1	包紙あり。包紙上書「和多田組 大庄屋中 御代官役所」
397	覚	(江戸後期) 未三月九日		入野組 大庄屋中	石取、近日通銭の分相戻し申すべきこと	綴紙	1	包紙あり。包紙上書「入野組 大庄屋中 地方役所」
398	覚	(江戸後期) 未十一月廿三日		入野組 大庄屋中		切紙	1	包紙あり。包紙上書「入野組 大庄屋中 浦山役所」
399	駄竹浦沖国瀬・赤瀬論今村掛合 状控	安政二年卯四月				長帳	1	長帳1冊合綴(向嶋駄竹海境論双方掛合状写 駄竹浦) 安政2年卯3月)
400	〔駄竹浦破船一件関係書類〕	(文政11年7月～9月)				一括	1	400-1～400-3紙紐一括
400-1	〔駄竹浦破船一件控〕	(文政11年) 子7月～9月			子州風早郡北条町神屋善左衛門船破船につき	長綴	1	
400-2	口上覚	(文政11年) 子七月十七日	入野組大庄屋 諸岡達 内	御代官 御役所	駄竹浦の内にて子州松山御領風早浦北条町神屋善左衛門船破船につき	長綴	1	400-2、400-3同折
400-3	口上覚	(文政11年) 子七月	子州 八郎右衛門		駄竹浦国瀬にて子州松山御領風早浦北条町神屋善左衛門船破船につき	長綴	1	
401	〔職金者関係書類〕	(天保9・10年頃)				一括	1	401-1～401-4紙紐一括
401-1	覚	(天保9年) 戊正月	入野組大庄屋 諸岡達 内		中村清三郎金8両ほか人別金高書上	折紙	1	401-1、401-2同折
401-2	覚	(天保9・10年頃)			三人掛持300両・大庄屋格分席迄10両ほか格式別金高書上	綴紙	1	

番号	表題	年代	作成	宛名	内容	形態	数量	備考
401.3	[蔵金者取調へ関係書類]	(天保10年3月25日)				一括	1	401.3-1～401.3-4袋一括。袋上書「天保十冬年蔵金之者有無調 三月 入 星 納 鶴 寺 新 田 高」
401.3-1	覚	(天保10年) 冬三月廿五日	納所村庄屋 吉田八郎 右衛門	御組元	蔵金3両などにつき	折紙	1	包紙あり。包紙上書「上 納所村」
401.3-2	[書状]	(天保10年・冬) 三月廿五日	鶴田太郎右衛門	御組元	去春御手伝蔵金の際、蔵金者なきこと	切紙	1	
401.3-3	[書状]	(天保10年・冬) 三月廿五日	菅津 日高清治	諸岡達内様	御手伝金として金4両差出申すべきこと	継紙	1	
401.3-4	[書状]	(天保10年・冬) 三月廿三日	梅崎 桜井弘内	御組本	苗字帯刀其外座御相好む者当村にはなきこと	切紙	1	
401.4	御巡見使御出二付御手伝金内調書上帳	天保九年戊二月	入野組			長帳	1	拵。付紙1枚外れ(「以上拾三人之内円左衛門 順平式人」ほか)
402	覚	(江戸後期) 辰五月廿三日	地方役所⑩	入野村 大庄屋中	其村石炭当時売捌直段書差出すべきこと	切紙	1	包紙あり。包紙上書「入野村 大庄屋中 地方役所」
403	覚	(江戸後期) 戌三月	入野村惣代 民四郎、同平助、同村名頭 武助、同 幸四郎、同村大庄屋	入野村 大庄屋中 地方 御役所	家居根山雜木類伐出旅出願のため大積り取調へのこと	書綴	1	
404	覚	(江戸後期)			虎出丸ほか石炭種高書上	折紙	1	
405	一札之事	年号——	防州富浦船頭 河丸仙之丞、越後新島府主 三国屋□平	坂本屋兵五殿	此度私儀伊万里にて焼物荷種入出帆のところで納所村の納所沖にて離船につき	継紙	1	案文
406	覚	(江戸後期・子)			久里村御作事掛五反畑澁石10坪ほか村別評教書上	長綴	1	丁表墨書「ひかへ」
407	覚	(江戸後期) 六月九日	銀兵衛	入野村 御役場様	住方丸方吉832樽ほか船別樽数書上	折紙	1	
408	[包紙]	(江戸後期)	紙方役所	入野組 大庄屋中	上書「大急御用 入野組 大庄屋中 紙方役所」	包紙	1	
409	[人名書上など一括]	(江戸後期)				一括	1	409.1～409.3紙紐一括
409.1	[人名書上]	(江戸後期)			9月23日夜分につき	切紙	1	端裏書「平治(カ) 調方」
409.2	九月四日呼出面々	(江戸後期)			晴気浦政吉・炭山八百藏ほか人名書上	切紙	1	
409.3	[竹・紙]	(江戸後期)			墨書「●・「四十二」ほか	一纏り	1	竹1本・紙(木製)3枚同所
410	[包紙]	(江戸後期)	紙方役所	入野組 大庄屋中	上書「入野組 大庄屋中 紙方役所」	包紙	1	
411	[包紙]	(江戸後期)	紙方役所	入野組 大庄屋中	上書「大急御用 入野組 大庄屋中 紙方役所」	包紙	1	
412	[覚一括]	(江戸後期) 4月朔日・14日				一括	1	412.1、412.2包紙一括。包紙上書「入野組 大庄屋中 御代官役所」
412.1	覚	(江戸後期) 四月十四日	御代官役所⑩	入野組 大庄屋中	元晴気浦庄屋進之助御用あるにつき罷出すべきこと	切紙	1	
412.2	覚	(江戸後期) 壬四月朔日	御代官役所⑩	入野組 大庄屋中	新本場村重吉・源吉御借入金不納につき罷出すべきこと	継紙	1	
413	覚	(江戸後期) 申三月廿七日	御代官役所⑩	入野組 大庄屋中	高田釣分庄屋代役幾平御用あるにつき罷出すべきこと	切紙	1	包紙あり。包紙上書「入野組 大庄屋中 御代官役所」

番号	表題	年代	作成	宛名	内容	形態	数量	備考
414	覚	(江戸後期) 二月廿三日	浦山役所⑩ 晴気	入野村 大庄屋中	村山寸志として金3歩受取	切紙	1	
415	[書状]	(江戸後期) 六月十二日	晴気	御組元	別紙3通受取願い	切紙	1	
416	[題状]	(江戸後期) 六月十九日	諸岡淳藏	豊津、寺浦、新木 場、田野、高串、 晴気 右庄屋御中	石炭御益銭代勘定御達書・石炭御 受普控を願運のこと	継紙	1	端裏書「急脚 豊津□」
417	差上申御受書之事	安政三辰年六月八日	新木場山元方 中村実 藏ほか 梅崎村借主 東右衛門 ほか	地方 御役所	当組合村々石炭山御益銭納入につ き	継紙	1	
418	[赤子方御講銭受取証(文字)]	嘉永元年申八月		諸岡淳藏殿	七き銭142文5分拜借につきなど	書綴	1	断簡2丁のみ
419	[換地増分田畑書上綴]	(嘉永6年9月)		寺浦村・新木場村分ほか		綴	1	
420	[換地増分田畑書上綴]	(嘉永6年9月)		田野村・星賀村分ほか		綴	1	
421	新渡株	(江戸後期)		入野・大頭・晴気分半紙51貫ほか 村浦別半紙高・人数など算用書上		継紙	1	
422	[組合役用関係書類]	(江戸後期)				一括	1	422-1~422-12袋一括。袋上書「嘉永元年 来 扱入 申五月迄」
422-1	申上口上覚	(天保12年カ) 丑八月十 四日	納所村庄屋 吉田貞左 衛門	諸岡淳藏殿	納所村作七・女房しかなど実貞にて 家内一和いいたす者12名書上	折紙	1	付紙断簡1点同折(「者」とあり)
422-2	申上口上覚	(天保12年カ) 丑八月十 四日	田野村名頭 儀作⑩、 同村庄屋 伝藏⑩	入野組大庄屋 諸 岡淳藏殿	田野村弥作55才人物宜しく正路の 者につき	一紙	1	
422-3	覚	(天保12年カ) 丑	新木場庄屋 大浦元太 郎⑩	御組本	新木場村平作燻木1万5300本ほか当 春以来野取高書上	折紙	1	
422-4	覚	(天保12年カ) 四月廿二 日	郡屋	諸岡様	晴気去年貢不足米代5貫46文差上 のこ	継紙	1	端裏書「混雜」
422-5	[評議関係書類]	(天保12年カ・丑正月 28日)				一括	1	422-5-1、422-5-2同折
422-5-1	丑正月八日出会	(天保12年カ・丑正月 28日)				継紙	1	
422-5-2	覚	(天保12年カ・丑) 正月 廿八日	日高清治	諸岡様、御組合様	豊津浦不作不漁にて難済につき、御 用のほか内用渡船御断たき旨小前よ り申出のこと	折紙	1	
422-6	覚	(天保12年カ) 丑二月三 日			互256枚代4貫96文有浦安四郎へ相 渡し申すことほか	切紙	1	
422-7	[江戸算用書上]	(江戸後期・11月27日)			□4470円代2貫751文につき算用書上	継紙	1	端裏書「□付 諸岡氏分」
422-8	以書附奉願候事	(天保9年カ) 戌七月廿 五日	入野村名頭 廣吉⑩、 同 勘助⑩、同村大庄 屋 諸岡淳藏⑩	御代官御役所	旅出御免につき入野村廣太郎・村 山分雜木6万5000斤程伐出願い	一紙	1	包紙あり。包紙上書「上 入野村」
422-9	口上覚	(弘化3年カ) 未九月	晴気浦庄屋 雄平ほか 10名	諸岡達内殿	去冬格代引当の代銭を会所にて紛失 につき	長綴	1	2丁裏付紙1点外れ(「有之□」とあり)
422-10	[3代ほか算用書類]	(弘化年頃・未)				一括	1	422-10-1~422-10-6同折
422-10-1	覚	(江戸後期)			蠟燭・種油・蠟油代11貫280文算用 書上	切紙	1	
422-10-2	覚	(弘化3年カ) 未十二月 朔日	饗付屋 吉次右衛門	入野村 大庄屋様		切紙	1	
422-10-3	役場扣写	(江戸後期)			吉次右衛門御役所分蠟燭10斤ほか 書上	折紙	1	

番号	表題	年代	作成	宛名	内容	形態	数量	備考
422-10-4	覚	(弘化3年カ) 未十二月五日	よしみや 和兵衛	入野村 御役場	堀込燭10尺代3貫200文書上	綴紙	1	
422-10-5	口上	(江戸後期)	饗附屋 吉治右衛門	入野村 大庄屋縁	田冬蝶燭代1貫280文此者へ御渡し願ひ	切紙	1	
422-10-6	覚	(江戸後期) 四月七日	饗附屋 吉治右衛門	入野村 大庄屋組	鯉油はか代21貫200文此者へ御渡し願ひ、星賀村・納所村はか千木様・銀秤など書上	切紙	1	
422-11	覚	(江戸後期)				長綴	1	包紙あり。包紙上書「大急」
422-12	以書附奉願候事	(江戸後期) 申正月	入野村名頭 民助 [㊦] 、同 幸四郎 [㊦] 、同村大庄屋 諸岡淳藏	浦山方 御役所	入野村字田代村山1ヶ所の伐跡を村方一同へ御買渡し願ひ	書綴	1	奥書あり (田代覚作)。1丁・2丁間に排込文書1点あり (「覚」巻3巻につき)
423	郷夫銭などにつき書状一括	(江戸後期・3月)				一括	1	423-1～423-3同折
423-1	〔書状〕	(江戸後期) 三月廿八日	石田清右衛門	御細元	精銭受取書 ² 通達し申すこと、郷夫銭明日迄日延願ひはか	綴紙	1	「覚」、「口上」の写し
423-2	〔書状〕	(江戸後期) 三月十六日	郷夫掛 大庄屋	諸岡淳藏様	箱田様御屋敷へ夕日村辰平と申す者御抱えの件につき	綴紙	1	
423-3	〔書状〕	(江戸後期・3月)	久里 長谷川理太郎	郷夫掛 御同勤様	拙組夕日村辰平と申す者箱田運様御屋敷へ奉公中のごとく、郷夫部の当組出入に引ヶ居り申さざる件	綴紙	1	後欠
424	〔書状〕	(江戸後期) 三月十七日	晴気炭山元方 八百蔵	大庄屋様	炭山先積御益銭の納入延期願ひ	切紙	1	
425	以書付奉願候事	(嘉永2年) 西十一月	復七郎、綱太、池田寛左衛門、日高清治、鶴田治右衛門、池田左衛門	地方 御役所	仕入方行届かざるにつき石炭出石引当にて銭拝借願ひはか	綴紙	1	袖墨書「半紙雛形」
426	〔入野村刃傷一件などにつき書状〕	(江戸後期・西2月・3月)				一括	1	426-1～426-6包紙一括。包紙上書「高串浦分」
426-1	〔書付〕	(江戸後期) 二月初日			伊予住吉丸兼松ほか書上	切紙	1	
426-2	覚	(江戸後期) 西二月十一日			鳥原御領地有馬新左衛門の金瘡書上	折紙	1	
426-3	口上覚	(江戸後期) 二月十一日	高串浦分庄屋 池田寛左衛門	諸岡淳藏殿	鳥原御領地比有馬新左衛門も入野村おゆう山にて打擲を受け疵負いたる件につき	折紙	1	
426-4	〔書状〕	(江戸後期) 二月一日	嘉太郎	池田寛左衛門様	昨日新左衛門打擲住りたる者未、きねれ物持参にて真吉、倉松に仕掛けたるにつき召捕えの件など	綴紙	1	
426-5	〔書状〕	(江戸後期) 三月三日	高串 両庄屋	入野 諸岡淳藏様	石炭山の件につき山々元方など召連れ川筋へ罷越し申すこと	綴紙	1	426-5、426-6同折
426-6	〔書状〕	(江戸後期) 三月二日	官助、十兵衛、虎五郎	倉直様 各元方中	長都田分七人連れにて刀鐮抜身にて仕掛ヶたる件	綴紙	1	
427	乍恐奉敬上口上覚	(江戸後期) 西十二月	高串浦分 和三郎親類 嘉兵衛、惣代 全七、名頭 政兵衛、茂左衛門、同 好兵衛、池田寛左衛門、高串釣分庄屋 富永啓吾、入野組 大庄屋 諸岡淳藏	御代官御役所	高串釣分中村実藏兄和三郎御不審筋につき年寄、馬渡嶋預けのごとく、最法相守らず不埒のため村間い仰付り願ひ	書綴	1	案文

番号	表題	年代	作成	宛名	麻	内容	形態	数量	備考
428	口上覚	(江戸後期) 卯七月	鶴牧村百姓代 門、同村名頭 七右衛門、同村庄屋 定吉	林右衛門 七右衛門 定吉	入野組大庄屋 生太吉殿	当村・納所村の境杭の件につき	長帳	1	
429	御内分奉敬上口上覚	(江戸後期) 丑八月	田野村庄屋 か9名	伝藏⑩	御代官御役所	入野村ほか椿ノ3883貫347匁代納願	書綴	1	1丁裏付紙糊付け外れ。「三百匁」とあり)
430	覚	(江戸後期) 申正月	入野組大庄屋 蔵⑩	諸岡淳	御代官御役所	入野村米80匁・初4匁ほか開穀積立 村尺書上	書綴	1	
431	差上申口上書	文久元西年六月朔日	新本場村 浅右衛門⑩	入野組大庄屋 岡淳蔵殿	諸	大浦村民四郎へ牛売渡の始末につき	書綴	1	奥書あり(新本場村庄屋大浦又八郎ほか3名)
432	奉敬上口上覚	(江戸後期) 未十一月	有浦組大庄屋 左衛門ほか11名	松尾兵衛 御役所、 御代官御役所	浦山方	当夏以来打続の不季にて難渋につき 請本旅花御免願ひ	書綴	1	1丁表墨書「十一月廿六日 正印」
433	以書附奉願候事	(江戸後期) 戊七月廿五日	入野村名頭 同 勘助⑩、同村大庄 屋 諸岡淳蔵⑩	廣吉⑩、 同村大庄 屋	地方 御役所	入野村廣太郎維木山ほか旅出御免 の山々伐出につき願ひ	一紙	1	
434	〔請取書綴〕	(江戸後期・未8月頃～ 西正月頃)	赤子方役所⑩ほか	まか	入野組 大庄屋中	養育米増渡御御賞物引当て七式銭 70匁受取ほか	綴	1	紙紐墨書「申年請取書」。帯紙あり。帯紙墨 書「封之印」
435	〔書状〕	(江戸後期) 丑九月十九 日	吉田貞左衛門	御組元	御用紙増渡月朔受取願ひ		切紙	1	
436	御内分奉敬上口上覚	(江戸後期) 丑八月	田野村庄屋 か9名	伝藏⑩	御役所	入野村椿406貫950匁ほか代納御取 納願ひ	書綴	1	